

令和7年度

「基礎学力調査」

— 分析・考察と指導事例 —

令和7年10月
石川県教育委員会

目 次

本書の構成	1
-------	---

I 教科に関する調査結果の分析・考察

II 質問調査結果の分析・考察

本書の活用にあたって	2
------------	---

I 教科に関する調査結果の分析・考察	3
--------------------	---

《小学校第4学年 国語》 6

《小学校第4学年 算数》 12

《小学校第6学年 社会》 20

《小学校第6学年 英語》 26

《中学校第3学年 社会》 34

《中学校第3学年 英語》 40

II 質問調査結果の分析・考察	47
-----------------	----

1 小学校第4学年児童の調査結果 49

2 学習・生活状況と正答率との関係 56

3 教員の調査結果 59

本書の構成

I 教科に関する調査結果の分析・考察

(1) 全体的な傾向の分析・考察

- ・全体的な結果の状況

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

- ・領域・分野ごとの結果の状況

児童生徒の到達状況を下表のように表記した。

正 答 率	「到達状況」を示す記号、用語
90%以上の場合	◎：良好である
80%以上～90%未満の場合	○：概ね良好である
70%以上～80%未満の場合	◇：基準に到達している
60%以上～70%未満の場合	▽：十分とはいえない
60%未満の場合	▼：不十分である

- ・分析・考察及び学習指導に当たって留意すべきこと等
- ・参考となる他の指導事例や過去の調査問題
- ・指導改善のポイント

(3) 改善に向けた指導事例

- ・教科ごとに、改善に向けた指導事例を2事例記載し、以下の内容を示す。

	項 目	内 容
①	問題と解答の状況	・設問番号、領域・分野、出題のねらい、評価の観点 ・関連問題 ・正答（例）、誤答例、正答率、誤答率、無解答率
②	指導改善に向けて	・解答状況の分析・考察 ・指導改善の具体的なポイント
③	改善事例	・学年、単元（指導内容等） ・指導のねらい ・具体例

- ・関連する「プラス学びの12か条+」（巻末資料参照）の項目を右のように示す。

学びの12か条+ ○

II 質問調査結果の分析・考察

(1) 小学校第4学年児童の調査結果

- ・設問ごとの経年比較、学年間比較

(2) 学習・生活状況と正答率との関係

- ・正答率との関係を基にした分析・考察

(3) 教員の調査結果

- ・設問ごとの経年比較

本書の活用にあたって

「教科に関する調査結果の分析・考察」のページでは、以下のように、取り上げた問題に関連した指導事例や調査問題、指導に当たって留意すべきこと等を記載してあります。今後の授業の参考、取組の検証にご活用ください。

○学校第○学年 教科

県平均正答率	学校正答率
○○.○%	○%

(1) 全体的な傾向

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【領域・分野名】 (県平均正答率○○.○%) (学校正答率 %)

◎：出題の趣旨（設問番号）

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
○		○○.○%	%
○		○○.○%	%
○		○○.○%	%

(県) H○○：事例○
(県) R○○：○○

指導改善のポイント

□ (→ 事例1)
□ (→ 事例2)

①参考となる他の指導事例

②参考となる調査問題

③学習指導に当たって

④指導改善のポイント

学校正答率記入欄
(自校の正答率を記入して、分析に活用してください。)

学校正答率記入欄

① 参考となる他の指導事例

以下の略称を用いて記載しています。

- (全) …「全国学力・学習状況調査 報告書」及び「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」に掲載されている事例
- (県) …「基礎学力調査－分析・考察と指導事例－」に掲載されている事例
- (P) … WEB サイト「いしかわ学力向上プログラム」に掲載されている事例

② 参考となる調査問題

以下の略称を用いて記載しています。

- (全) … 全国学力・学習状況調査で出題された問題
- (県) … 本県の基礎学力調査で出題された問題
- (P) … WEB サイト「いしかわ学力向上プログラム」に掲載されている評価問題

③ 学習指導に当たって

取り上げた問題について、調査結果を受け、学習指導の改善・充実を図る際のポイントを、箇条書きで記載しています。

④ 指導改善のポイント

今年度の調査結果より、特に課題が見られた問題について、指導改善のポイントを記載しています。

I 教科に関する調査結果の分析・考察

小学校 第4学年

「国語」「算数」

小学校第4学年 国語

県平均正答率	学校正答率
53.4%	%

(1) 全体的な傾向

令和7年度の平均正答率は53.4%で、到達状況は不十分である。領域別では、「知識及び技能」の到達状況は十分とはいえず、令和6年度より2.1ポイント下回っている。「話すこと・聞くこと」領域、「書くこと」領域、「読むこと」領域の到達状況については、不十分であるが、「読むこと」領域については令和6年度より2.5ポイント上昇している。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【知識及び技能】 (県平均正答率：61.7%) (学校正答率： %)

◇：分類の仕方を理解すること〔－4〕

設問一4の正答率については、70.8%であり、基準に到達している。今後も話や文章を理解したり表現したりするために、観点を明確にして分類することで情報を整理する指導が大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
一 4	情報の整理(分類の仕方)	70.8%	%

(県) R3：－4

▼：辞書の使い方を理解し、使うこと〔三3(1)〕

設問三3(1)については p.8 参照。
指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
三 3(1)	国語辞典の使い方	46.8%	%

(県) H29：事例2

(県) R6：三3(1) R5：三1(1)

国語科の授業で読んだり書いたりするときには、国語辞典を活用する場を意図的に設け、様々な言葉を「見出し語」にしたり、言葉の適切な意味や使い方などを調べたりする学習活動を充実させること

【話すこと・聞くこと】 (県平均正答率：52.2%) (学校正答率： %)

▽：互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと〔－3〕

設問一3の正答率については、62.0%であり、十分とはいえない。
指導に当たっては、互いの話に関心をもって聞き、話の内容を理解した上で、相手の発言を復唱して確かめたり、共感を示したり、感想を言ったりする学習活動を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
一 3	話合いの進め方	62.0%	%

(県) H30：－1

▼：互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて質問をすること〔－2〕

設問一2については、p.10 参照。
指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
一 2	話合いの進め方	35.7%	%

(県) H30：事例1

(県) R3：－2 H30：－2

話題を確かめた上で、友達の考えとその理由を区別して聞くことができているか、友達の考えと自分の考えを比べながら聞いて、質問したり、共感したりするなど、話をつなぐことができているかという観点を意識して話し合う活動を充実させること

【書くこと】 (県平均正答率：45.3%) (学校正答率： %)

▽：書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくること〔八1条件〕

設問八1条件の正答率については、60.3%であり、十分とはいえない。

指導に当たっては、組み立てメモの中から、書こうとする内容を決め、段落のまとまりを意識しながら、条件に即して書く学習活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
八 1条件	構成の検討 (条件)	60.3%	%

(県) H28：事例1

(県) R6：八1条件 H28：八1条件

▼：書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること〔八2〕

設問八2の正答率については、38.2%であり、不十分である。

指導に当たっては、物語に対する感想や意見を伝え合うときには、学習過程で作成した物語の組み立てをおおまかに書いたメモを用いながら、書き手の書こうとしたことが明確に表現されているかという観点で物語を読み合う学習活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
八 2	共有	38.2%	%

(県) R6：事例1

(県) R6：八2 H28：八3

【読むこと】 (県平均正答率：33.2%) (学校正答率： %)

▼：目的を意識して、中心となる語や文を見付けること〔二2①②〕

設問二2の正答率については、26.8%であり、不十分である。

指導に当たっては、見付けた語や文を整理する際には、必要な情報は何かということを念頭に置きながら、適切に表現することができるような学習活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
二 2①	説明的文章の精査・解釈	30.4%	%
二 2②	説明的文章の精査・解釈	23.1%	%

(県) R6：事例2

(県) R6：二1①② R5：二2①②

▼：文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと〔二3〕

設問二3の正答率については、33.7%であり、不十分である。要因としては、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことを基に、考えを形成する指導が不十分だと考えられる。

指導に当たっては、学習過程を大切に、文章を読んで何を理解したのかを明確にして、考えを形成する学習活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
二 3	考えの形成	33.7%	%

(県) H30：事例2

(県) R6：二3 R4：二2

指導改善のポイント

- ☐ 表現したり、理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる活動を充実すること (→ 事例1)
- ☐ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて質問をする学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条+ 2

ア 事例1

表現したり、理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
㊦3(1)	知識及び技能	辞書の使い方を理解し、使うことができる。	知識・技能
㊦3(1) 「ほし」を国語辞典にのっている言葉の形に直して書きましょう。			
正答		誤答例	
ほす		・星 ・ほして ・ほします ・干し	
正答率		誤答率	無解答率
46.8%		30.9%	22.3%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「辞書の使い方を理解し、使うことができる」であり、正答率は46.8%と不十分である。要因としては、国語辞典の使い方を学習する場が、その単元での学習にとどまり、国語科の他の単元において、調べたい言葉の意味を国語辞典で調べる機会や、調べたい言葉を適切な「見出し語」にする指導が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、国語科の授業で読んだり書いたりする他の単元の学習において、国語辞典を活用する場を意図的に設け、様々な言葉を「見出し語」にしたり、言葉の適切な意味や使い方などを調べたりする学習活動を充実させることが必要である。

③ 改善事例 第3学年

「食べ物のひみつを教えます」 光村図書三年下

1 指導のねらい

- ・辞書の使い方を理解し、使うことができる。 (知識及び技能 (2) イ)
- ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。 (書くこと (1) イ)

2 具体例

言語活動：読む人に分かりやすいと思ってもらえるような文章を書こう
 ～「くふうブック」で材料をおいしく食べるくふうを伝えよう～

単元計画	第一次	1	・既習の学習「すがたをかえる大豆」で学んだ筆者の説明の工夫について振り返る。 ・「くふうブック」を読んでもらう相手を決め、読む人に分かりやすいと思ってもらえるような文章を書くという学習の見通しをもつ。
	第二次	2 ～ 5	・取り上げる材料を決める。 ・<u>取り上げた材料について、本や資料で調べ、調べたことを表で整理する。</u> ・整理した表をもとに、文章の組み立てを考え、組み立てメモを作成する。 ・考えた組み立てに沿って、説明する文章を書く。 ・書いた文章を読み返し、文章を整える。
	第三次	6	・友達と文章を読み合い、友達や自分の文章のよいところ（書き方、内容）を見付ける。

第二次 2時：取り上げた材料について、本や資料で調べ、調べたことを表で整理する。

前時までに、関連図書等を読み、取り上げたい材料について決めている。



今日は、本や資料から、自分が取り上げた材料は、「どんな食品になるか」「おいしく食べるために、どんな工夫をしているか」について調べるのでしたね。



ぼくは、弟に苦手な魚を少しでも食べてほしいから、弟に「くふうブック」を読んでもらいたいよ。

私は、大好きなとうもろこしを使った料理のレパートリーを増やしてもらいたいから、お母さんに「くふうブック」を読んでもらいたいな。



今日は、「くふうブック」を読んでもらいたい人に伝えたいと思う情報を本や資料から見付けて、表にまとめていきましょう。

＜読む人のことを考えて、〇〇（材料）のおいしく食べる工夫を見付けよう＞

同じ材料を選んだ児童同士の交流



調べた本から、魚を「つくだに」や「ひもの」「かまぼこ」などの食品にして、おいしく食べる工夫をしていることが分かったよ。



本当だね。「かまぼこ」の「おいしく食べる工夫」の中の「ねり」は、どういう意味なのかな。「くふうブック」を読む弟も意味が分からないと思うよ。国語辞典で言葉の意味を調べて、弟が分かるような言葉に直して書いたらどうかな。



確かにそうだね。言葉の意味を国語辞典で調べてみよう。あれ、「ねり」で調べると、国語辞典に出ていないな。

国語辞典
で調べる



国語辞典で、言葉の意味を調べるときは、どんなことに気を付けるのですか。【国語辞典の使い方を想起させるための発問】



国語辞典の使い方は1学期に勉強したな。その時にまとめたノートを見てみよう。国語辞典で言葉の意味を調べるときは、「見出し語」に直して調べるのだったね。

学習ノートで国語辞典
の使い方を振り返る

* 国語辞典の使い方については、H29「基礎学力調査」－分析・考察－事例2参照



そうだったね。「ねり」の見出し語は「ねる」かな。「ねる」で調べてみよう。

調べてみたら、「ねる」には「寝る」と「練る」があったよ。文章の意味を考えると、「練る」の方がこの文章に合うね。でも、「練る」には、8つの意味が書いてあるよ。どれが、調べた本の文章に合う意味なのかな。

国語辞典で
再度調べる



文章に合う意味を選ぶには、その言葉が出てくる前後の文や調べた本のページに載っている写真、国語辞典の例文を見るとよいですよ。

【文章に合った意味を選択するための支援】



そうか、写真や例文を見ると「よくこねて、ねばらせる」という意味が合うな。だから、「白身魚に味をつけて、よくこねて、ねばらせる。」という文に直そう。



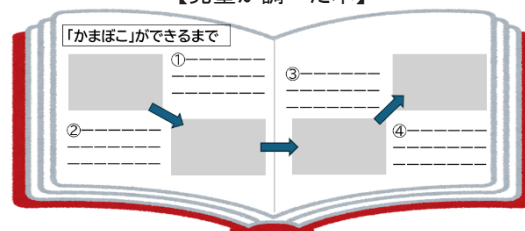
弟にも分かるような言葉の意味に直すことができましたね。今後も、読む人に分かりやすいと思ってもらえるような文章を書くために、国語辞典を活用していきましょう。

【国語辞典の使い方について確かめ、
国語辞典を活用するよさを価値付ける】

【児童がノートにまとめた表】

食品	食品	食品	食品
かまぼこ	ひもの	つくだに	食品
白身魚に味をつけてねり、うらごしをする。そのあと、板にもりつけてむす。	そのあと、太陽に当ててほしたり、かんそうさせたりする。	魚を開いて、内ぞうを取ってあらう。	落としぶたをして、魚をつめる。にくずれしやすいので、はしでかきまぜないでいる。

【児童が調べた本】



【国語辞典を活用するときのポイント】

- ・言葉の意味を調べるときには、「見出し語」に直す。
- ・同音異義語がある場合や言葉の意味が複数ある場合は、調べた本に載っている写真を参考にしたり、調べたい言葉の前後の文や国語辞典の例文を読んだりして、文章に合う言葉や意味を考える。

イ 事例2

学びの12か条 + 2・4・6・7

互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて質問をする学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
□2	話すこと・聞くこと	互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。	思考・判断・表現

□2 石野さんが、のところで、村田さんに質問をしています。どんな質問をしたのかを書きましょう。

正答例	誤答例	
・ どうしてじっけんを見せるとよいと思うのですか。 ・ じっけんを見せるとよいと思う理由は、何ですか。	・ じしゃくのじっけんを見せるといいと思います。 ・ 予想していないものとはなんですか。 ・ 予想していないものがじしゃくにくつつくとはどういうことですか。	
正答率（準正答率） 35.7%（4.4%）	誤答率 45.4%	無解答率 18.9%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる」であり、正答率は35.7%と不十分である。要因としては、相手の発言の内容を理解した上で、友達の考えと自分の考えの違うところを見付けながら聞き、思ったことを質問することができるような指導が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、話題を確かめた上で、友達の考えとその理由を区別して聞くことができているか、友達の考えと自分の考えを比べながら聞いて、質問したり、共感したりするなど、話をつなげることができているかという観点を意識して話し合う学習活動を充実することが必要である。

③ 改善事例 第2学年

「そうだんにのってください」 光村図書二年下

1 指導のねらい

- ・ 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
(知識及び技能(2)ア)
- ・ 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。
(話すこと・聞くこと(1)オ)

2 具体例

言語活動：友達の言ったことにつなげながら、相談ごとについて話し合おう

単 元 計 画	第一次	1	・ 友達と相談してよかったことや、友達の相談ごとについて話し合うときには、何に気を付けるとよいかについて話し合い、友達の言ったことにつなげながら、相談ごとについて話し合うという学習の見通しをもつ。
	第二次	2・3	・ 学習や学校生活のことで友達に相談してみたいことを考え、出し合う。 ・ 話し合いで解決できそうな相談ごとを選ぶ。
		4～6	・ 話し合いの進め方を確認し、話し合う。 ・ <u>話し合いのモデル動画を視聴し、相談する人の立場を順番に交代しながら、グループで話し合う。</u> ・ 話し合ってよかったことを伝え合う。

第二次 4、5時：事前に作成しておいた話し合いのモデル動画を視聴し、相談する人の立場を順番に交代しながら、グループで話し合う。

前時までに、相談したい話題を決め、話し合いの進め方について、学習をしている。



前の時間は、相談ごとについてどのようにグループで話し合いを進めればよいかを確かめて、話し合いましたね。そのとき撮った自分たちのグループの話し合いの動画を見て、振り返りましたが、うまく話し合えていましたか。



ひとりずつ順に考えを出すことはできたんだけど…。

友達の言ったことにうまくつなげて話をするのができなかったよ。どうしたらよかったのかな。



＜友達の言ったことにつなげて話をするには、どうしたらよいか＞



友達の言ったことにつなげて話をするにはどうすればよいか、モデル動画の中からヒントを見付けましょう。【相手の発言を受けて話をつなぐための手がかりを見付けることを促す発問】

【モデル動画におけるやり取り】



A：給食で苦手なものが出たとき、みんなはどうしているのか知りたいな。

B：ぼくは先に食べるよ。口の中に苦手なものの味が残らないようにするためだよ。

C：なるほど、いい考えだね。苦手なものを先に食べてから他のものを食べると、口の中に苦手なものの味が残らないね。私は好きなものと一緒に食べるようにしているよ。

B：どうして好きなものと一緒に食べるのですか。

C：好きなものと一緒に食べると、苦手なもののおいが気にならないからだよ。

B：へえ。それは知らなかったな。

D：Cさんの話に付け足すと、ぼくは、小さく切って好きなものと一緒に食べているよ。そうしたら、苦手なものも食べられたよ。

A：相談に乗ってくれてありがとう。みんないろんな工夫をしているんだね。みんな話を聞いて、私は、好きなものと一緒に食べるという方法を試してみたいと思ったよ。

Bさんの話を聞いて、Cさんは「なるほど、いい考えだね。」と言っていたよ。Bさんの考えが自分とは違っていただけで、考えとその理由がよく分かったから、そんな反応をしたのかな。



そうだったよ。しかも、Cさんは「苦手なものを先に食べてから他のものを食べると、口の中に苦手なものの味が残らないね。」と言っているから、Bさんの考えの理由がよく分かったんだね。



友達の考えとその理由を自分の考えと比べながら聞くことで、友達の考えがいい考えだと思ったり、よく分かったりするのですね。そうすると、友達の言ったことにつなげて話をするができますね。

【話をつなぐためのポイントを確認する】

Cさんが「好きなものと一緒に食べる」と話したことに對して、Bさんが質問をしていたのいいね。



どうして質問をしたらよいと思うのですか。

【質問をすることのよさを考えるための発問】

質問をすると、Cさんに「好きなものと一緒に食べる」理由を教えてもらうことができているからだよ。



「どうして好きなものと一緒に食べるのですか。」と質問をしたら、Cさんの考えの理由をくわしく知ることができて、話がつながっていくんだね。



質問をするためには、どうしたらよいのでしょうか。

Bさんみたいに、友達の考えとその理由を自分の考えと比べて聞くと、自分と同じところや違うところに気付いて、質問したいことが出てくると思うよ。



確かに。友達の考えとその理由が自分と違うと、友達がどうしてそんなふうに考えたのかなと質問したくなるよね。



友達の言ったことにつなげて話をするには、友達の考えとその理由を自分の考えと比べて聞くことが大切なのですね。そして、同じ考えだったり、いい考えだったりしたら、そのことをみんなに伝えたいのですね。また、くわしく知りたいことは質問をすると話がつながりますね。グループでの、次の話し合いに取り入れてみましょう。【児童の気づきを価値付け、次の話し合い活動への意欲につなげる】

順番に相談する人になり話し合う。話し合いの様子を動画で撮影し、話がつながっているかどうかを振り返る。

小学校第4学年 算数

県平均正答率	学校正答率
61.2%	%

(1) 全体的な傾向

令和7年度の平均正答率は61.2%で、到達状況は十分とはいえない。領域別では、「数と計算」領域は、6年度より0.7ポイント下回っているが、基準に到達している。「図形」領域は、依然として課題が見られ、到達状況は不十分であるが、6年度より3.5ポイント上回っている。「測定」領域は、到達状況は十分とはいえないが、6年度より12.5ポイント上回り、改善が図られている。「データの活用」領域は、6年度より11.1ポイント下回り、到達状況は不十分である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【数と計算】

(県平均正答率：71.4%) (学校正答率： %)

○：整数や分数の加法や減法の計算をすること〔1(1)(2)(3)〕

設問1(1)(2)(3)の正答率については、87.6%であり、概ね良好である。今後も、計算の技能が、算数科の基礎となる能力として確実に身に付くよう、児童の学習状況を見ながら、反復による学習の機会を適宜設けて指導を行うことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1	(1) 繰り上がりのある加法計算	90.2%	%
	(2) 波及的繰り下がりのある減法計算	86.2%	%
	(3) 整数－分数	84.6%	%

(県) H27～R6：1

▼：示された求め方を解釈し、適用すること〔7(2)〕

設問7(2)については、p.14 参照。
指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
7	(2) 題意に即した余りの適切な処理の説明【方法】	56.0%	%

(県) R5：6(2) H30：5(2)

- ・日常生活の問題を解決した結果に対し、児童が問いをもち、問題場面に照らし合わせて妥当かどうかを判断し結論を得ることができるような学習活動を充実させること
- ・友達の意見を聞いた後で、同じように説明したり、統合的・発展的に考えて自分で説明できるか別の場面で確かめたりする学習活動を充実させること

【図形】

(県平均正答率：56.9%) (学校正答率： %)

▽：図形を構成する要素に着目し、正三角形の構成の仕方を考えること〔4(2)〕

設問4(2)の正答率については、67.8%であり、十分とはいえない。

指導に当たっては、定規、コンパスなどを用いて、図形をかいたり確かめたりすることを通して、図形の性質を捉える学習活動を充実させることが必要である。また、三角形や円などをもとにした模様作りなどを通して、図形のもつ美しさに関心をもつことができるような学習活動を充実させることも必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4	(2) 正三角形の構成の仕方	67.8%	%

(県) R4：3(2)

▼：長方形の定義を理解すること〔2(4)〕

設問2(4)の正答率については、44.3%であり、不十分である。

指導に当たっては、図形の性質を考察する際には、図形を構成したり弁別したりする活動を取り入れ、その性質を発見できるようにするとともに、図形の性質を筋道立てて説明する学習活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2	(4) 長方形の定義	44.3%	%

(県) R4：事例1

(県) R6：2(4) R5：4 R4：2(6)

【測定】 (県平均正答率：64.5%) (学校正答率： %)

◇：必要な情報を用いて、指定された長さを求めること〔6(1)〕

設問6(1)の正答率については、76.6%であり、基準に到達している。今後も、単位の意味や単位間の関係を形式的に指導するのではなく、単位間の関係の意味に基づいて、適切な単位を選択して的確に表現することができるような指導を行うことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6 (1)	長さの単位換算と測定	76.6%	%
(県) R6：3(1) R5：9(1) R4：8(1)			

▼：かさについて適切な単位を理解すること〔2(5)〕

設問2(5)については、p.16 参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2 (5)	かさの適切な単位	50.6%	%
(県) R6：2(5) R4：8(2) H29：2(3)			

- ・かさを測定する際に、身の回りのもののかさを手掛かりにして、およそのかさの見当を付けてから測定するような学習活動を充実させること
- ・身の回りのもののかさについて、普遍単位を用いて進んで表現したり、測定する対象の大きさに応じた適切な単位を選択して的確に伝え合ったりするような学習活動を充実させること

【データの活用】 (県平均正答率：40.4%) (学校正答率： %)

▼：簡単な二次元表の数値から読み取ったことを表現すること〔5(2)〕

設問5(2)の正答率については、32.5%であり、不十分である。要因としては、身の回りにある事象について分類整理された表の特徴を捉え考察し、見いだしたことを表現できるような指導が不十分であると考えられる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5 (2)	簡単な二次元表の数値の意味【事実】	32.5%	%
(県) R5：事例2			
(県) R6：5(2) R5：3(2) R4：6(1)			

指導に当たっては、児童自身が目的を明確に捉え、観点を決めて分類整理して二次元の表に表したり、二次元の表を考察したりする学習活動を充実させる必要がある。表を考察する際には、表の中にある数値が何を表しているのかを適切に表現できるような指導を行う必要がある。

▼：棒グラフからデータの特徴を捉えたことを根拠に、正しくない理由を説明すること〔8(2)〕

設問8(2)については、16.9%であり、不十分である。要因としては、グラフの1目盛りの大きさを基に数量を的確に読み取ったり、グラフから特徴や傾向を捉え考察したりすることができるような指導が不十分であると考えられる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
8 (2)	グラフの読み取りを根拠とした正しくない理由の説明【理由】	16.9%	%
(県) R6：事例2 R1：事例2			
(県) R6：8(2) H30：8(2)			

指導に当たっては、1目盛りの大きさにも着目しながら複数のグラフを比較して特徴を見いだしたり、考えたことを伝え合ったりする学習活動を充実させる必要がある。

指導改善のポイント

- ☐ 日常生活の問題を解決する過程や結果を、図や数、式などを用いて表現し伝え合う学習活動を充実すること (→ 事例1)
- ☐ 身の回りのものの特徴に着目し、測定に用いる単位や計器を適切に選択しながら比べたり表したりする学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1

学びの12か条 + 1・3・5

日常生活の問題を解決する過程や結果を、図や数、式などを用いて表現し伝え合う学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
7(2)	数と計算	示された求め方を解釈し、適用することができる。	思考・判断・表現

7 のぞみさんとだいきさんの教室には学級文庫があります。次の問いに答えましょう。

(2) のぞみさんとだいきさんは、学級文庫にある本を読んでいます。のぞみさんは、47ページの本を1日に9ページずつ読んでいます。全部読み終わるまでに何日かかるのかを、次のようにもとめました。

【のぞみさんのもとめ方】



47ページの本を1日に9ページずつ読むので、
式は、 $47 \div 9 = 5$ あまり2 となります。
5日読むと、まだ2ページのこりです。
のこりの2ページを読み終えるには、もう1日かかるので、
 $5 + 1 = 6$
だから、全部読み終わるまでに6日かかります。

だいきさんは、68ページの本を1日に7ページずつ読んでいくと、全部読み終わるまでに何日かかるのかを、次のようにもとめました。

【だいきさんのもとめ方】



68ページの本を1日に7ページずつ読むので、

㊦

 だから、全部読み終わるまでに ㊦ 日かかります。

正答例	誤答例	
・式は、$68 \div 7 = 9$あまり5となります。 9日読むと、まだ5ページのこりです。 のこりの5ページを読み終えるには、 もう1日かかるので、 $9 + 1 = 10$	・式は、$68 \div 7 = 9$あまり5となります。 9日読むと、まだ5ページのこりです。 (商に1を加える理由についての説明や、その式がない) ・$68 \div 7 = 9$あまり5 $5 + 1 = 6$ (商とあまりの意味を理解していない)	
正答率 (準正答率) 56.0% (8.2%)	誤答率 34.5%	無解答率 9.5%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「示された求め方を解釈し、適用することができる」であり、正答率は56.0%と不十分である。誤答については、立式し、商とあまりを求めることはできていても、除法の結果についての説明がなかったり、商に1を加える理由の説明や、その式がなかったりしたものが多い。要因としては、除法の結果を元の事象に戻して考え、余りをどのように解釈すればよいかを考えることができるような指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、日常生活の問題を解決した結果に対し、「これでよいのだろうか？」と児童が問いをもち、問題場面に照らし合わせて妥当かどうかを判断し結論を得ることができるような学習活動を充実させることが必要である。また、どの単元においても、友達の意見を聞いた後で、同じように説明したり、統合的・発展的に考えて自分で説明できるか別の場面で確かめたりする学習活動を充実させることが必要である。

③ 改善事例 第3学年「あまりのあるわり算」

1 指導のねらい

除法の答えの意味を問題場面に戻って考え、表現することができる。

2 具体例【商に1を加える場合と加えない場合とを比較・分析し、答えが妥当か判断する活動】

前時までに、日常生活の場面に当てはめて、商とあまりの解釈を考える学習をし、商に1を加える場合や加えない場合があることについて学んでいる。



前の時間では、問題に合うようにするために、あまりをどうしたらよいのかを考えましたね。

あまりを答えに足す時と足さない時があることが分かったね。



でも、あまりを答えに足す時と足さない時のちがいが、まだよく分からないな。



【2つの場面を比較して、除法の結果の意味を考える】

①バラの花が27本あります。6本ずつたばにして、花たばを作ります。6本ずつの花たばは、いくつできますか。

②ボールが27こあります。1はこに6こずつ入れていきます。全部のボールをはこに入れるには、何はこいるでしょうか。



どちらの問題も式は $27 \div 6$ になりそうだよ。今日の問題もわりきれないね。



どちらも計算すると、4あまり3になります。



2つの「4あまり3」の“4”は何を表しているのかな？ “3”は何を表しているのかな？



①の“4”は、花たばの数を表して4たば、“3”は、あまりのバラの花の数を表して3本です。



②の“4”は、はこの数を表して4はこ、“3”は、あまりのボールの数を表して3こです。

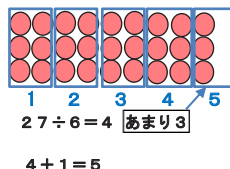
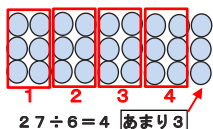


【除法の結果を、問題場面や図とつなげて考え、妥当かどうかを判断する】



それでは、問題の答えはどうなりますか？式と図をつなげて考えてみましょう。

4たばできて、3本あまります。あまりの3本は花たばにできないから、問題の答えは4たばになります。



4はこできて、3このこりあります。のこりの3こを入れるために、もう1つ、はこがあるの、 $4 + 1 = 5$ で、問題の答えは5はこになります。



図でくらべてみると、答えにあまりを足す時と足さない時のちがいははっきりと分かるね！



【理解したことをアウトプットする場を設定する。】

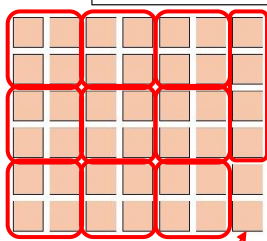


他の場面でも説明できますか。(適用問題に取り組む)

にもつが42はこあります。1回に4はこずつ運ぶと、何回ですべてのにもつを運ぶことができますか。



あまりをどうすればいいのかな？気を付けないといけないね。



$$42 \div 4 = 10 \text{ あまり } 2$$

$$10 + 1 = 11$$

$42 \div 4 = 10$ あまり 2
10回運んで、まだ2このこりです。
だから $10 + 1 = 11$ になります。
すべてのにもつを運ぶのに 11 回かかります。



どうして $10 + 1$ をしたの？

「のこりの2こを運ぶために、もう1回にもつを運ばないといけないから」と説明すると、分かりやすくなるよ。



のこりの2こを運ぶために、もう1回にもつを運ばないといけないから、 $10 + 1 = 11$ になります。
すべてのにもつを運ぶのに 11 回かかります。



自分の考えを式だけではなく、図や言葉を使って説明すると、分かりやすく伝わりますね。



除法の結果を図に表すことで、除法の意味を理解したり、結果が妥当かどうかを判断したりすることができます。また、具体物や図、式などを用いて解決し、結果を確かめる活動を普段から行うことで、結果について児童自身で吟味することができるようになります。

イ 事例2

学びの12か条＋1・2・6

身の回りのものの特徴に着目し、測定に用いる単位や計器を適切に選択しながら比べたり表したりする学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
②(5)	測定	かさについて適切な単位を理解している。	知識・技能

② 次の問いに答えましょう。

- (5) のぞみさんは、遠足へ持っていく水とうに入水のかさを調べました。□にあてはまる水のかさのたんいを、下の□から1つえらんで書きましょう。



水とういっぱいに入水のかさは、
800 □ です。



のぞみさん

L

dL

mL

正答	誤答例	
・ mL	・ dL	・ L
正答率	誤答率	無解答率
50.6%	48.1%	1.4%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「かさについて適切な単位を理解している」であり、正答率は50.6%と不十分である。誤答については、dLを選択したものが多く見られた。要因としては、児童にとって水とうは普段から見慣れているものであっても、水とうに入水のかさを量として捉えたり、量の大きさについての感覚をともなって理解したりする学習活動が十分ではなかったと考えられる。

指導に当たっては、長さの学習で、身の回りのものの長さを手掛かりに、およその長さの見当を付けてから測定したように、かさの測定をする際にも、身の回りのもののかさを手掛かりにして、およそのかさの見当を付けてから測定するような学習活動を充実させることが必要である。また、身の回りのもののかさについて、普遍単位を用いて進んで表現したり、測定する対象の大きさに応じた適切な単位を選択して的確に伝え合ったりするような学習活動を充実させることも必要である。

③ 改善事例 第2学年「かさ」

1 指導のねらい

身の回りにあるもののかさについて、実際に測定する活動において、およその見当を付け、単位を適切に選択して測定することができる。

2 具体例【身の回りのもののかさを手掛かりにして、およそのかさの見当を付けてから測定する活動】

前時までに、かさを表す単位や身の回りのもののかさについて学習してきており、本時は単元のまとめとしての時間である。



（ワークシート例）

はかるもの	よそう	つかうます	けっか
バケツ	1000mL	1 dL ます	
なべ	2 L	1 L ます	



身の回りにはたくさんの容れ物があります。それぞれの容れ物のかさはどれくらいでしょうか。（※内容量の表示をあらかじめ隠しておく。）



長さの学習と同じように、何かをもとにして予想してから、容れ物のかさを測って見たらよいかもしれないね。

長さの学習の時は、親指から人差し指までの長さ10cmをもとにして、いくつ分かを使って考えたよ。



【身の回りのものをもとにして、およその見当を付ける】



例えば、このバケツのかさを、およその見当を付けてから、測ってみましょう。長さの学習と同じように、**何かをもとに考える**ことはできそうかな？



いつも飲んでいるお茶のペットボトルをもとに、バケツのかさを考えてみよう。

給食の牛乳パックをもとに考えるよ。かさは200mLだよ。これをもとに、バケツのかさを考えてみよう。



自分なりにもとになるものを決めて考えると、およそのかさの予想が立てやすいね。



500mLのペットボトルで考えると、2本分になりそうだな。このバケツのかさは1000mLだと思うよ。

このバケツには200mLの牛乳パックで考えると4杯入りそう。予想は800mLだと思うよ。



およその見当を付けることができましたね。では、1L ますか1 dL ますを使って、測ってみましょう。



1L ますを使って測ると10目盛り分ぴったりだから、バケツのかさは1L だよ。

予想が800mL だから、1 dL ますで測ったよ。測ったら1 dL のますで10杯分だったから、バケツのかさは10 dL だ。予想と違っていたよ。



【単位について統合的・発展的に考える】



同じバケツのかさを測っているのに、どうして1Lと10 dLになるのかな？

測る時に、もとにしているますがちがっているから、1Lと10 dLになったんだと思うよ。



そうだね。確かに表し方はちがうけれど、1Lと10 dLは同じかさだよ。どうしてかと言うと、1Lは1 dLの10個分だからだよ。



身の回りのもののかさを測定する際、自分がもとにしたものの大きさでおよその見当を付けて測定するなどの活動を充実させることが大切です。活動を通して、児童が自ら単位を選択し、大きさを的確に表現することを繰り返す中で、量の大きさについての感覚を豊かにしていくことができます。

〔2年生〕「長さのたんい」
基準となる長さの感覚を身に付け、およその見当を付けて測定し、適切な単位で量を表す学習活動

〔3年生〕「重さのたんいとはかり方」
基準となる重さの感覚を身に付け、およその見当を付けて測定し、適切な単位で量を表す学習活動

小学校 第6学年

「社会」「英語」

小学校第6学年 社会

県平均正答率	学校正答率
57.3%	%

(1) 全体的な傾向

令和7年度の平均正答率は57.3%で、到達状況は不十分である。石川県全体の地形や交通の様子などの理解については、概ね良好であるが、地図帳から実際の距離や位置について読み取ることについては、依然として課題が見られる。また、図や文章で表された資料から、問題解決のために必要な情報を読み取ることについても課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【地域学習】

(県平均正答率：60.3%) (学校正答率： %)

○：石川県全体の地形や交通の様子などを理解すること〔1(2)〕

設問1(2)の正答率については、83.8%であり、概ね良好である。今後も、自分たちの県の様子について、地図帳を活用する学習活動を取り入れ、県の地形や交通の様子などの特色を理解できるように指導することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1 (2)	石川県の周りの海	83.8%	%

(県) R3：1(1)③

◇：人々の安全を守るための関係機関の働きや、相互に連携して対処する体制について理解すること〔3(1)(2)〕

設問3(1)(2)の正答率については、78.5%であり、基準に到達している。今後も、消防署や警察署などの関係機関が、通信指令室等を中心に連携していることなどを基に、地域の安全を守る働きについて理解することができるよう指導することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3	(1) 警察署で働く人の仕事	83.1%	%
	(2) 110番通報（通信指令室）	73.9%	%

(県) R4：3(1) H29：3(1)

▼：実際の距離や位置について、地図帳から、読み取ること〔1(4)〕

設問1(4)については、p.22 参照。
指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1 (4)	石川県の市の位置	47.9%	%

(県) H21：1(4)

- ・学習問題を追究・解決するために、地図帳の索引や凡例などを活用して必要な情報を読み取ること
- ・読み取った情報を用いて適切に表現する学習活動を充実させること

▼：廃棄物が資源として再利用されていることについて、適切に表現すること〔4(1)〕

設問4(1)の正答率については、22.9%であり、不十分である。誤答としては、「スチール」や「アルミ」などの文字にのみ着目し、「資源の再利用」という分別の目的について表現できていない解答が多く見られた。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4 (1)	廃棄物の処理の工夫（マーク）	22.9%	%

指導に当たっては、それぞれのマークの意味を捉えとともに、何のためにマークが付されているのかを考え、表現する学習活動を充実させることが必要である。

【産業と国土】

(県平均正答率：54.7%) (学校正答率：%)

◇：情報の活用の仕方について、目的に応じて情報を適切に判断すること〔6(3)〕

設問6(3)の正答率については、70.2%であり、基準に到達している。今後も、情報の種類や情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉えることができるように指導することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6 (3)	情報の活用	70.2%	%

▽：世界における我が国の国土の位置について、適切に表現すること〔2(1)A〕

設問2(1)Aの正答率については、62.6%であり、十分とはいえない。

指導に当たっては、地図帳や地球儀などを活用する学習を意図的に設定し、我が国と主な国々、大陸や海洋などとの位置関係について、方位などを用いて表現する学習活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2 (1)A	日本の位置と領土 (ユーラシア大陸の東側)	62.6%	%

(県) R6：事例2

(県) R3：2(1)①

▼：世界における我が国の位置と領土について、地図帳から、読み取ること〔2(3)(4)〕

設問2(3)(4)の正答率については、47.9%であり、不十分である。

指導に当たっては、地図帳や地球儀を用いて、緯度や経度、方位を使って様々な地点の位置を表す学習活動や、中心地からの距離と方位が正しい地図を用いて、中心地からの距離を読み取る学習活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2	(3) 日本の位置と領土 (東京からの距離)	56.1%	%
	(4) 日本の位置と領土 (与那国島の経度)	39.6%	%

(県) R6：事例2 R4：事例1

(県) R6：2(3)(4) R5：2(2)②

▼：環境に配慮した自動車の特徴について、資料を基に考察し、適切に表現すること〔5(4)〕

設問5(4)については、p.24 参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5	(4)F	29.2%	%
	(4)G	26.9%	%
	(4)H	30.9%	%

(県) H29：5(6)

- ・グラフから読み取ることができる数値などを確認した上で、変化や割合など全体的な傾向を捉える学習活動を充実させること
- ・複数の資料から読み取った情報を整理し、それぞれの資料から読み取った情報を関連付けて考察し、適切に表現する学習活動を充実させること

指導改善のポイント

- ☐ 自分たちの県の様子を捉えるために、地図帳から、必要な情報を適切に読み取る学習活動を充実すること (→ 事例1)
- ☐ 複数の資料から情報を読み取り、それらを関連付けて考察し、社会的事象の意味を適切に表現する学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条+ 1・3

ア 事例1

自分たちの県の様子を捉えるために、地図帳から、必要な情報を適切に読み取る学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
Ⅰ(4)	地域学習	実際の距離や位置について、地図帳から、読み取ることができる。	知識・技能

Ⅰ (4) さくらさんは、ある市を地図帳のさくいんで調べ、「51ウ2」と示されていることを知りました。

その市は、地図帳の「51ウ2」のマス目の中で、最も東に位置しています。

さくらさんが調べた市を地図帳から見つけ、解答用紙の白地図に、その市全体をえんぴつでぬりつぶしましょう。



正答	誤答例	
	・地図帳の「51ウ2」が示す範囲を正確に捉えていない解答 ・地図帳の「51ウ2」が示す範囲を正確に捉えてはいるが、四方位を正しく理解できていない解答	
正答率 47.9%	誤答率 37.6%	無解答率 14.6%

② 指導改善に向けて

本設問のねらいは、「実際の距離や位置について、地図帳から、読み取ることができる」であり、正答率は47.9%と不十分である。誤答としては、加賀地方の市や町を塗りつぶすなど、地図帳の「51ウ2」が示す範囲を正確に捉えていない解答が見られた。また、地図帳の「51ウ2」が示す範囲を捉えてはいるが、範囲の中の南に位置している七尾市を塗りつぶすなど、四方位を正しく理解できていない解答も見られた。要因としては、地図帳を活用して、市や町の広がりを表したり、四方位を用いて市や町の位置を表したりする学習活動が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、学習問題を追究・解決するために、地図帳の索引や凡例などを活用して必要な情報を得て、それらを用いて適切に表現する学習活動を充実させることが必要である。

③ 改善事例 第4学年「都道府県の様子」

1 指導のねらい

自分たちの県の様子を捉えるために、地図帳から、必要な情報を適切に読み取ることができる。

2 具体例

【学習問題】〈わたしたちが住む石川県の地形には、どのような特色があるのかな〉

[参照] 「楽しく学ぶ小学生の地図帳（令和5年度採択 帝国書院） p.57～58

石川県は縦に長い形をしているね。

白山は聞いたことはあるけれど、どこにあるのかな。

地図帳で白山を探すには、どうしたらよいでしょうか。

前に学習した索引を使って白山を探してみよう。

58ページの「イ」列と「4」行が交わるところに、白山があるよ。

白山が、石川県内で一番高い山だと聞いたことがあるよ。

白山は、石川県の下の方にあるよ。

索引を見ると、白山は「58イ4」と書いてあるよ。

索引を使うと、探したい場所を簡単に見つけることができましたね。

ポイント①：地図帳の索引を用いて、位置を確かめる方法を確認する。

ポイント①：地図帳の索引を用いて、位置を確かめる方法を確認する。

ポイント②：地図帳の凡例を基に、色の違いから、土地利用や陸の高さを読み取れることを確認する。

それでは、ここまでで分かったことを確認してみましょう。

石川県の下の方には、白山という高い山があります。上の方には、あまり高い山がなく、果樹園があります。石川県は、縦に長くて、土地の使われ方に違いがあるね。

「上の方」とか「下の方」だと、分かりにくいなあ。方位を使って表した方が分かりやすいよ。

方位を使って表すと、石川県の南の方には、白山があって、北の方には、あまり高い山はなく、果樹園があるという言い方になるね。「縦に長い」は、正しく表現できないかな。

方位を使うと、「南北」という言い方ができるんじゃないかな。

方位を使うと、石川県の地形の特色を、みんなに分かりやすく、正しく伝えることができますね。それでは、石川県の地形の特色について、地図帳や話し合いから分かったことを、白地図に書きこんでまとめましょう。

ポイント③：方位を使って、位置や分布を表現する学習活動を行う。

目的に応じて、紙の地図帳とデジタル地図を使い分けてみましょう。

- ・紙の地図帳：位置や地形、産業の分布など全体像をつかむことができる。地図記号や方位、縮尺など、基本的な技能を身に付ける上で有効な教材である。また、地図だけでなく統計や資料なども調べ学習に活用できる。
- ・デジタル地図：細部から広域まで自在に見ることができる。また、立体表示や航空写真を切り替えて表示したり、地図上に必要な情報を重ねたりすることによって、該当地域の概要を確認することができる。

イ 事例2

学びの12か条+ 1・3

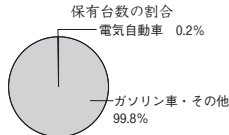
複数の資料から情報を読み取り、それらを関連付けて考察し、社会的事象の意味を適切に表現する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
⑤(4) F・G・H	産業と国土	環境に配慮した自動車の特徴について、資料を基に考察し、適切に表現することができる。	思考・判断・表現

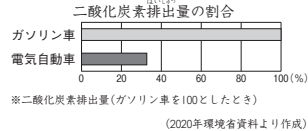
- ⑤ (4) みうさんは、電気自動車について調べるうちに、国が電気自動車を充電するための場所を増やす取り組みをしていることを知りました。その取り組みが環境を守るにつながると考え、理由をノートにまとめました。資料3と資料4をもとに、ノートにF～Hにあてはまる言葉を、それぞれ書きましょう。

〔資料3〕日本における自動車別の保有台数の割合



(2022年自動車検査登録情報協会資料より作成)

〔資料4〕ガソリン車と電気自動車の二酸化炭素排出量の割合



※二酸化炭素排出量(ガソリン車を100としたとき)

(2020年環境省資料より作成)

【みうさんのノート】

資料3からは、 F ことが分かり、資料4からは、 G ことが分かります。
これらのことから、電気自動車を充電するための場所を増やす取り組みは、 H ことになり、かん境を守る取り組みにつながると考えるからです。

	正答例	誤答例
⑤(4) F	(資料3からは、) ・日本における電気自動車の保有台数の割合が0.2%しかない ・日本におけるガソリン車の保有台数の割合がとても大きい (ことが分かり、)	・日本における自動車別の保有台数の割合
	正答率(準正答率) 29.2% (3.7%)	誤答率 53.5%
		無解答率 17.3%
⑤(4) G	(資料4からは、) ・電気自動車の二酸化炭素はい出量の割合がガソリン車の半分以下である ・ガソリン車の方が電気自動車よりも二酸化炭素はい出量の割合が大きい (ことが分かります。)	・ガソリン車と電気自動車の二酸化炭素はい出量の割合
	正答率(準正答率) 26.9% (4.4%)	誤答率 53.3%
		無解答率 19.8%
⑤(4) H	(電気自動車を充電するための場所を増やす取り組みは、) ・二酸化炭素のはい出量が少ない電気自動車の台数を増やす ・電気自動車を増やし、二酸化炭素はい出量を減らす (ことになり、かん境を守る取り組みにつながると考えるからです。)	・かん境を守る ・自然を守る
	正答率(準正答率) 30.9% (28.5%)	誤答率 39.7%
		無解答率 29.4%

② 指導改善に向けて

本設問のねらいは、「環境に配慮した自動車の特徴について、資料を基に考察し、適切に表現することができる」であり、正答率はF 29.2%、G 26.9%、H 30.9%といずれも不十分である。誤答としては、F、Gともに資料の表題をそのまま解答欄に書いているものが見られた。また、Hは、準正答の割合が高かった。要因としては、2つの資料から読み取ったことを関連付けて考察し、適切に表現する学習活動が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、グラフから読み取ることができる数値などを確認した上で、変化や割合など全体的な傾向を捉えることができるようにする学習活動や、複数の資料から読み取った情報を整理し、それぞれの資料から読み取った情報を関連付けて考えを説明することができるような学習活動を充実させることが必要である。

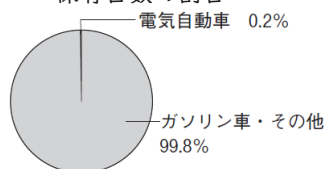
③ 改善事例 第5学年「我が国の工業生産」

1 指導のねらい

複数の資料から情報を読み取り、それらを関連付けて考察し、社会的事象の意味を適切に表現することができる。

2 具体例

【資料1】日本における自動車別の保有台数の割合



(2022年自動車検査登録情報協会資料より作成)



みなさん、資料1からどんなことが分かりますか。

日本における自動車別の保有台数の割合は、ガソリン車・その他が99.8%で、電気自動車の割合は0.2%だということが分かります。



そうだね。日本では、電気自動車の保有台数の割合は、ガソリン車・その他と比べて、とても少ないことが分かります。

ポイント①：グラフから数値を読み取り、全体的な傾向を捉えることができるような学習活動を行う。



日本ではガソリン車・その他と電気自動車の割合が大きく違うことが分かりましたね。ガソリン車が多いのに、国は電気自動車を充電するための場所を増やす取り組みをしています。なぜでしょうか。

充電するための場所が少ないから、増やそうとしているのではないかな。



【学習問題】〈国が電気自動車を充電するための場所を増やす取り組みをしているのはどうしてだろう〉



国が充電するための場所を増やす取り組みをしているのは、なぜでしょうか。資料2から、どんなことが考えられますか。



ガソリン車と電気自動車で、二酸化炭素排出量の割合が大きく違うことが分かります。



確かにそうですね。二酸化炭素排出量の割合が少ないのは、ガソリン車ですか。それとも電気自動車ですか。



電気自動車の方が、二酸化炭素排出量の割合が少ないです。

二酸化炭素排出量の割合が少ない電気自動車を増やすことは、二酸化炭素排出量を減らすことにつながると思います。

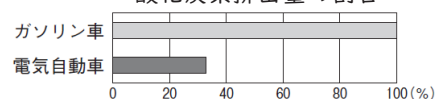


確かに。ガソリン車に比べて、電気自動車の方が二酸化炭素排出量が少ないのだね。環境にやさしいということだね。



よいところに気が付きましたね。板書を見ながら、国が電気自動車を充電するための場所を増やすための取り組みをしている理由を考えてみましょう。

【資料2】ガソリン車と電気自動車の二酸化炭素排出量の割合



※二酸化炭素排出量(ガソリン車を100としたとき)

(2020年環境省資料より作成)

【板書例】

〈国が電気自動車を充電するための場所を増やす取り組みをしているのはどうしてだろう〉

	電気自動車	ガソリン車
資料1から分かること	保有台数のわり合いが少ない	保有台数のわり合いが多い
資料2から分かること	二酸化炭素のはい出量が少ない	二酸化炭素のはい出量が多い

かん境にやさしい

ポイント②

それぞれの資料から読み取った情報を関連付けて課題について考えられるように、資料から読み取った情報を表に整理する。

環境にやさしい電気自動車の割合が、とても少ないということだね。



ガソリン車が多いと、二酸化炭素排出量も多くて、環境によくないということだね。

だから二酸化炭素排出量が少ない電気自動車を増やすことが、環境を守ることにつながるのだね。



充電する場所を増やそうとしている理由について考えることができましたね。それでは、学習問題について、みんなで話し合ったことをまとめましょう。

ポイント③

子どもたちから出た、まとめにつながるようなキーワードは、板書に残しておく。

国がこの取り組みをしているのは、二酸化炭素排出量が少ない電気自動車の台数を増やすことで、環境を守ることにつながるからです。



小学校第6学年 英語

県平均正答率	学校正答率
88.6%	%

(1) 全体的な傾向

令和7年度の平均正答率は88.6%で、到達状況は概ね良好である。領域別では、「聞くこと」の領域は良好であり、「読むこと」の領域と「書くこと」の領域は概ね良好である。「聞くこと」の領域では、簡単な語句を聞き取ることについては良好であり、短い会話を聞いて、具体的な情報を聞き取ることについては、基準に到達している。「書くこと」の領域では、身近で簡単な事柄について、簡単な語句を書き写すことは良好であるが、文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体（小文字）を書くことについては十分とはいえない。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【聞くこと】 (県平均正答率：93.3%) (学校正答率：%)

◎：身近で簡単な事柄について、簡単な語句を聞き取ること〔1〕

設問1の正答率については、94.7%であり、良好である。今後も、身近で簡単な事柄について、簡単な語句を聞き取る活動を意図的、継続的に行うことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1	(1) 自己紹介（好きな食べ物）の聞き取り	90.7%	%
	(2) 自己紹介（誕生日）の聞き取り	94.4%	%
	(3) 自己紹介（好きなこと）の聞き取り	99.1%	%

(県) R5、R6：1

◇：日常生活に関する身近で簡単な事柄（欲しいもの）について、具体的な情報を聞き取ること〔4(2)〕

設問4(2)については、p.28参照。
指導に当たっては、次のような点を充実させることが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4	(2) 短い会話（欲しいものの理由）の聞き取り	73.3%	%

(県) R6：事例1

(県) R6：4(2) R5：5(2)

- ・聞き取る目的や場面、状況などを明確にした上で、単元を通して扱う語句や表現を繰り返し聞いたリ、それらを用いてやり取りをしたりして、語句や表現に慣れ親しみ、その意味が分かるように指導すること
- ・学習過程で、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用することで、語句や表現の定着を図ることができるような学習活動を充実させること

【読むこと】 (県平均正答率：84.6%) (学校正答率：%)

○：日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示物を読んで、自分が必要とする情報を得ること〔8〕

設問8の正答率については、85.0%であり、概ね良好である。今後も日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示物やパンフレットなどを読んで、自分が必要とする情報を得る活動を継続的に行うことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
8	(1) 単語（music room）を読んで意味を理解すること	84.5%	%
	(2) 単語（library）を読んで意味を理解すること	85.5%	%

(県) R6：9 R5：8

○：日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とするものを推測しながら読んで、自分が必要とする情報を得ること〔9〕

設問9の正答率については、83.7%であり、概ね良好である。今後も、簡単な語句や基本表現について、推測しながら

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
9	文章（町紹介カード）を推測しながら読んで、必要な情報を得ること	83.7%	%

(県) R6 : 10

読むことができるように、音声で十分に慣れ親しむ活動や活字体で書かれた文字を見て、読み方を適切に発音する活動、語を一つのまとまりとして徐々に認識する活動などを行うことが大切である。

【書くこと】 (県平均正答率：82.1%) (学校正答率： %)

◎：相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、簡単な語句を書き写すこと〔10〕

設問10の正答率については、91.7%と良好である。今後も、自分のことを相手に知ってもらうなどの目的をもって、音声で十分に慣れ親しんだ身近な事柄について、簡単な語句を書き写す活動を継続していくことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
10	(1) 目的・場面・状況に応じて自分の誕生月を書き写すこと	96.3%	%
	(2) 目的・場面・状況に応じて自分が好きな色を書き写すこと	97.3%	%
	(3) 目的・場面・状況に応じて自分ができることを書き写すこと	81.5%	%

(県) R6 : 8 R5 : 9

▽：文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の小文字を書くこと〔7(2)〕

設問7(2)については、p.30参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
7	(2) アルファベットの小文字を書くこと(s)	63.0%	%

(県) R5、R6 : 事例2

(県) R6 : 7(2) R5 : 7(3)

- ・第3学年、第4学年での外国語活動での「聞くこと」「話すこと」の言語活動の経験を踏まえ、段階的に書くことができるよう指導すること
- ・「話すこと」の言語活動と「読むこと」、「書くこと」を組み合わせる単元を構成し、指導すること

指導改善のポイント

- 目的や場面、状況などを意識して聞く活動を行い、実際のコミュニケーションにおいて、音声や語彙、表現などの知識を活用し、身に付ける学習活動を充実すること (→ 事例1)
- 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を四線上に正しく書き写すことができるように、段階的な学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1

学びの12か条+ 4

目的や場面、状況などを意識して聞く活動を行い、実際のコミュニケーションにおいて、音声や語彙、表現などの知識を活用し、身に付ける学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
④(2)	聞くこと	日常生活に関する身近で簡単な事柄（欲しいもの）について、具体的な情報を聞き取ることができる。	知識・技能

④ (リスニング問題文)

次に、問題④に移ります。ゆみさんの学級では、英語の授業で友達のことをもっとよく知るために、インタビューをし合っています。ゆみさんは、ひろしさんのほしいものとその理由について聞き取った情報をワークシートに日本語でメモしました。次の【ワークシート】の(1)と(2)にあてはまる言葉を、日本語でそれぞれ書きましょう。それでは、始めます。

ゆみ : Hello, Hiroshi.
 ひろし : Hi, Yumi.
 ゆみ : Hiroshi, when is your birthday?
 ひろし : November 3rd.
 ゆみ : I see. I want a new umbrella for my birthday.
 What do you want for your birthday?
 ひろし : Well ... I want a pencil case.
 ゆみ : Why?
 ひろし : My pencil case is small.
 ゆみ : Oh, I see. (Repeat)

【ワークシート】

★聞いて分かったことをメモしましょう。

相手の名前	ほしいもの	理由
ひろしさん	(1)	(2)

正答例	誤答例	
・ 筆箱が小さいから ・ 小さいから	・ 古くなったから ・ 小さい筆箱がほしいから	・ カッコいいから
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
73.3% (3.0%)	21.5%	5.2%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「日常生活に関する身近で簡単な事柄（欲しいもの）について、具体的な情報を聞き取ることができる」であり、正答率は73.3%と基準に到達しているが、上記のような誤答が多く見られた。要因としては、学習過程で理由を述べるときに使われている語句に音声として十分に親しむことができていないことや、表現が定着していないことが考えられる。

指導に当たっては、聞き取る目的や場面、状況などを明確にした上で、単元を通して扱う語句や表現を繰り返し聞いたり、それらを用いてやり取りをしたりして、語句や表現の意味が分かるように指導することが必要である。聞き取りが十分ではない児童がいる場合は、デジタル音声を複数回聞いたり、児童が聞く英語の速さに留意したりするなど、児童の状況を見ながら、継続的に指導を行う必要がある。

また、学習指導要領に示されているように、①設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する、②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う、といった学習過程で、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用することができるよう指導を行うことも大切である。

③ 改善事例 第5学年「Happy birthday!」東京書籍「When is your birthday?」光村図書

1 指導のねらい

日常生活に関する身近で簡単な事柄について、目的や場面、状況に応じて、具体的な情報を聞いたり、答えたりすることができる。

2 具体例（前時：デジタル音声で、登場人物の誕生日や欲しいものなどを聞き取る活動をしている）

*活動例については、R6「基礎学力調査」－分析・考察と指導事例－事例1参照

① Small Talk/Chants: When is your birthday? What do you want for your birthday? Why?

① 設定されたコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを理解する

先生 When is your birthday? My birthday is May 5th.

先生 What do you want for your birthday? I want comics.

先生 Why? I like ONE PIECE. How about you?

先生 先生はどんなものが欲しいのかな？みんなにも聞いてみたいな。

ALT 児童

課題：《先生やクラスみんなのことをもっと知るために、誕生日や好きなもの、欲しいものについて、聞いたり答えたりしよう》

② 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる

先生に聞きたいです。When is your birthday? My birthday is July 7th.

欲しいものを聞きたいときは、どう言うんだっただかな？

Everyone, how do you say?

何だったかな。教科書を見てみよう。

チャンツに出てきたよ。What do you want?

(そうだ！さっきチャンツで歌ったな。) What do you want?

I want a new cap. Why?

It's old.

こういった表現を使えばいいんだな。

③ 目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う

AさんとBさんは、“Why?”だけでなく“What ○○do you like?”を使って聞き合っているな。よい例として取り上げよう。

(言語活動後の中間指導で)
誰に伝えるのだったかな？相手のことをよく知るためには、何を聞けばよいかな？AさんとBさんの会話を聞いてみよう。

【ワークシート】

★聞いて分かったことをメモしよう

相手の名前	ほしいもの	理由など

④ 言語面・内容面で自らの学習のまとめと振り返りを行う

先生やクラスみんなのことをもっと知るために、くわしく聞き合ったり、伝え合ったりすることができましたか。

習った表現を使って、他の質問をすることで、みんなのことをもっと知ることができました。

友達のことをくわしく知るためには、“Why?”や“What ○○do you like?”なども使うとよいことが分かったよ。

指導のポイント

①教師やALTが言語活動をデモンストレーションで提示することで、児童がそのやり取りの目的や場面、状況などを理解し、意欲をもてるようにする。

②児童との意味のあるやり取りを繰り返すことで、語句や表現を習得していくようにする。また、①のSmall talkやChantsで練習した語句や表現について思い出すことができるようにする。

③適時適切に児童を見取り、児童の実態から考えを広めたり深めたりできるように、効果的な中間指導を行うとともに、④のまとめや振り返りにつなげる。

③誰に、何のために、伝えようとしているのか、常に①に立ち返ることができるよう中間指導を行う。

③、④最初と最後のやり取りを録画・録音し、学びや変容を自覚できるようにする。

学習過程は、①から④の一方方向ではなく、ねらいに応じて、①から④を戻ったり、繰り返したりする。

イ 事例2

学びの12か条+ 5

音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句を四線上に正しく書き写すことができるように、段階的な学習活動を充実すること

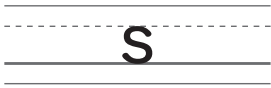
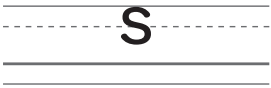
① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
7(2)	書くこと	文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の小文字を書くことができる。	知識・技能

7 (リスニング問題文)

次に、問題7に移ります。次の(1)～(3)の指示に合わせて、解答用紙の4線の上にていねいに書きましょう。それでは、始めます。

(2) アルファベットの3つ読みます。3つ目に読まれたアルファベットを小文字で書きましょう。
y-e-s (Repeat)

正答	誤答例	
(2) 	 3文字書いている。	 四線上の正しい位置 に書いていない。
正答率 63.0%	誤答率 36.3%	無解答率 0.7%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の小文字を書くことができる」である。ここでは、上記のような誤答が多く見られた。要因としては、文字と音を結び付ける指導や四線上に正しく書く指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、第3学年、第4学年での外国語活動での「聞くこと」「話すこと」の言語活動の経験を踏まえ、①一文字ずつ書く、②単語を書き写す、③文の一部を書き写す、④文を書き写す等、段階的に「書くこと」の学習を進めることが大切である。

また、書く活動を行う際には、目的や場面、状況などを明確にした書く必然性のある言語活動を設定し、聞いたり話したりして音声で十分に慣れ親しんだ表現を書くように指導することが大切である。さらに、書いたものを友達と読み合う等、他の領域の活動と組み合わせた単元構成も重要である。

③ 改善事例 第6学年「My Best Memory」東京書籍 光村図書（学習段階に応じて）

1 指導のねらい

文字を書く際、文字の読み方と十分に結び付け、目的や場面、状況を明確にした上で、四線上に正しく書くことができる。

2 具体例



ベテラン先生

小学校5、6年生での「書くこと」の指導のポイントを教えてください。



若手先生

3、4年生の「聞くこと・話すこと」の活動を踏まえ、音声で十分に慣れ親しんだ表現について、段階的に書くように指導するとよいですよ。また、「話すこと」の言語活動と「読むこと」「書くこと」を組み合わせた単元を構成し、文構造の理解につなげることも大切です。



【段階的な「書くこと」の指導】＊活動例は、R6「基礎学力調査」－分析・考察と指導事例－事例2参照

STEP1

アルファベット

一文字ずつ

アルファベットを読み方と十分に結び付け、高さや形を意識し、**大文字・小文字**を四線上に正しく書く。

STEP2

単語を書き写す

音声で十分に慣れ親しんだ**単語**を四線上に正しく書き写す。

STEP3

文の一部を書き写す

音声で十分に慣れ親しんだ**基本的な表現**を四線上に正しく書き写す。

STEP4

文を書き写す

音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで**文**を書く。



【「話すこと」と「読むこと」「書くこと」を組み合わせた展開例】

第6学年「My Best Memory」の単元ゴール

クラスの友達に自分のことを知ってもらうために、My best memory bookを作ろう

① My best memory についての表現や内容に慣れ親しむために聞いたり話したりする

What's your best memory?

What did you enjoy?

Why?

My best memory is our sports day.

I enjoyed the relay.

I can run fast.

理由を伝えるときに、I can を使ってできることを伝えたら自分のことをもっと知ってもらえるな！

② 自分のことを友達に知ってもらうために、音声で十分に慣れ親しんだ表現を使って、伝えたいことを文に書く

1つの単語に見えるな。

My best memory is scnoolcamp.

これでよいですか。どう直せばよいですか？

school と camp の間は少し空けます。

My best memory is schoolcamp.

「合宿」は2つの単語で表すのでしたね。

p は地下1階建て、h は2階建てのアルファベットでしたね。

教科書で確認したら、h と p の高さが違ってきます！

③ 自分のことをもっと知ってもらうために、My best memory book を読み合い、感想を伝える

My best memory

My best memory is our school camp.
We went to Noto.
We enjoyed hiking.
I like walking.



友達に自分のことを知ってもらえるような内容になっていますか？

友達を読んで分かるような書き方になっていますか？

〇〇さんは歩くことが好きなんだ！好きなことを書くとうる自分のことをもっと知ってもらえるな。

△△さんの文は、語と語の間がしっかりと空いていて読みやすいな。自分の文をもう一度書き直してみよう。

指導のポイント

①単元ゴールにおいて、目的や場面、状況などを明確にし、書いたり読んだりする必然性のある言語活動を設定する。その言語活動は、児童の興味・関心を高め、取り組みたくなるようなものとする。

②四線を正しく使っていない、大文字と小文字が混同している、語と語の区切りがない等、修正が必要な児童が自己調整し、正しい語句や文が書けるよう、教師が問い掛けたり、児童が自ら間違いに気付けるような手立てを工夫する。

③児童が書いたものを読み合い、目的に合った内容や表現になっているかを伝え合い、児童の気付きを促す。また、読んだ後に個人で書き直す場を設ける。

中学校 第3学年
「社会」「英語」

中学校第3学年 社会

県平均正答率	学校正答率
53.2%	%

(1) 全体的な傾向

令和7年度の平均正答率は53.2%で、到達状況は不十分である。特に歴史的分野は45.0%と不十分で、基礎的・基本的な歴史上の事象についての正答率も不十分である。また地理的分野、歴史的分野ともに、複数の資料から読み取った情報を基に、社会的事象の意味や意義などを考察し、適切に表現することについては、依然として課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【地理的分野】 (県平均正答率：62.5%) (学校正答率： %)

○：日本の海岸の特色について理解すること〔4(4)〕

設問4(4)の正答率については、86.0%であり、概ね良好である。今後も、地図帳を十分に活用しながら日本全体としての地域的特色を理解することができるような指導をすることが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4 (4)	日本の特色ある海岸 (リアス海岸)	86.0%	%

(県) H28：4(2)

◇：アフリカの公用語の歴史について、複数の資料を基に考察し、適切に表現すること〔1(2)③〕

設問1(2)③の正答率については、71.8%であり、基準に到達しているが、「旧宗主国の言語が公用語となった」ことに言及していなかったために、準正答となった解答の割合が高かった。今後も環境条件や歴史的背景等に着目して地理的事象を考察し、考察したことを適切に表現することができるような指導をすることが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1 (2)③	アフリカの国々の公用語	71.8%	%

(県) R1：1(4)②

▼：ナイジェリアの貿易がかかえる課題について、複数の資料を基に考察し、適切に表現すること〔1(2)④〕

設問1(2)④の正答率については、22.8%であり、不十分である。モノカルチャー経済の特色について理解はしているものの、問題で提示された資料と関連付けて考察し、題意を踏まえて適切に表現できていなかったために、誤答となった解答が見られた。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1 (2)④	ナイジェリアの貿易が かかえる課題	22.8%	%

(県) H25：事例1

(県) R1：1(5)

指導に当たっては、複数の資料から読み取った情報を、既習の知識と関連付けて多面的・多角的に考察し、適切に表現する学習活動を充実させることが必要である。

▼：近畿地方における2つの府県の特色について、資料を基に考察し、適切に表現すること〔4(5)〕

設問4(5)の正答率については、30.3%であり、不十分である。

指導に当たっては、それぞれの地域的特色を明確にし、比較することによって得られた情報を既習と関連付けて考察し、自分の言葉で適切に表現する学習活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4 (5)	近畿地方における2つの府県の特色	30.3%	%

(県) R2：4(4)

【歴史的分野】

(県平均正答率：45.0%) (学校正答率： %)

▽：古代の基礎・基本となる歴史的事象について理解すること〔2(2)〕

設問2(2)の正答率については、64.4%であり、十分とはいえない。

指導に当たっては、大和朝廷による統一の様子と東アジアとの関わりについて、大陸から移住してきた人々の我が国の社会や文化に果たした役割を理解することができるような学習活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2 (2)	歴史上の事象 (渡来人・帰化人)	64.4%	%

(県) R2：2(3)

▼：聖徳太子の私財法の影響について、資料を基に考察し、適切に表現すること〔2(5)〕

設問2(5)の正答率については、20.3%であり、不十分である。

指導に当たっては、歴史的事象と社会や人々の生活の変化を関連付けて考察し、歴史的事象の背景や影響を適切に表現する学習活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2 (5)	聖徳太子の私財法の影響	20.3%	%

(県) H26：2(6)

▼：鎖国が行われていたころの欧米諸国の主な出来事について理解すること〔3(3)①〕

設問3(3)①については、p.36 参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3 (3)①	鎖国と同時期の欧米諸国の出来事	20.1%	%

- ・世界の動きとの関わりの中で我が国の歴史の流れを捉えることができるような学習課題を設定すること
- ・世界の動きが日本の社会にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現することができるような学習活動を充実させること

▼：明治政府が地租改正の税率を変更した理由について、複数の資料を基に考察し、適切に表現すること〔5(3)〕

設問5(3)については、p.38 参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2	(3)X 地租改正における税率の変化	28.5%	%
	(3)Y 地租改正における税率の変化の理由	43.6%	%

(県) R2：5(3)

- ・読み取りに関わる語句や用語の意味を明確にすること
- ・資料から適切に情報を読み取り、得られた情報を基に考察し、表現する学習活動を充実させること

指導改善のポイント

- 各時代の特色を捉えるために、我が国の歴史と世界の動きとの関連を踏まえて課題を追究したり解決したりする学習活動を充実すること (→ 事例1)
- 歴史的事象の原因や影響について、文献などの資料から適切に読み取った情報を基に考察し、表現する学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1

学びの12か条+ 1・2

各時代の特色を捉えるために、我が国の歴史と世界の動きとの関連を踏まえて課題を追究したり解決したりする学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
③(3)①	歴史的分野	鎖国が行われていたところの欧米諸国の主な出来事について理解している。	知識・技能

㉔

江戸時代

厳しい禁教と貿易・外交統制を政策とする㉔鎖国が実施された。長崎や薩摩藩など4つの窓口が開かれ、19世紀中頃まで、オランダや中国（清）など、限られた国々と貿易が行われた。

(3) ㉔のカードについて、次の①、②の問いに答えなさい。

- ① 下線部㉔について、鎖国が行われていたところの欧米諸国の様子について述べた文として適切なものを、次のア～エから2つ選びなさい。

- ア ドイツのルターが、宗教改革を始めた。
 イ フランスのモンテスキューが、三権分立を唱えた。
 ウ アメリカで独立宣言が発表され、ワシントンが初代大統領になった。
 エ スペインの援助を受けたマゼラン一行が、世界一周に成功した。

正答	誤答例	
イ、ウ	ア、エ	
正答率	誤答率	無解答率
20.1%	79.4%	0.5%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「鎖国が行われていたところの欧米諸国の主な出来事について理解している」であり、正答率は、20.1%と不十分である。誤答としては、ア、エの組合せが多かった。要因としては、ポルトガルやスペインによる新航路開拓と宗教改革によるキリスト教世界の動きについては、同時期の歴史的事象だと捉えているが、そのような世界の動きが、日本の社会にどのような影響を与えたのかについて理解できるような学習活動が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、世界の動きとの関わりの中で我が国の歴史の流れを捉えることができるような学習課題を設定し、世界の動きが日本の社会にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現することができるような学習活動を行うことが必要である。

③ 改善事例 第2学年「欧米の進出と日本の開国」

1 指導のねらい

世界の動きとの関連を踏まえ、我が国の歴史を捉えることができる。

2 具体例

幕末から近代にかけての学習が始まるのですが、単元の学習課題を、どのように考えたらよいでしょうか。



単元の課題を考えるにあたって、まずは「各時代の特徴」について考えてみましょう。これから学習する時代には、どのような特徴がありますか。

新しい学問や思想が広がったことや、開国をしたことが大きな特色だと思います。



そうですね。歴史的分野の学習においては、学習指導要領にも書いてあるように、**世界の動きとの関わりの中で我が国の歴史を取り扱うことが必要**です。その視点で、単元で取り扱う学習内容を整理し、単元の学習課題を考えてみてはどうでしょうか。

この時代は、欧米で市民革命が起り、政治が大きく変わったことを、世界の動きとして学びますよね。

そうですね。また、産業革命によって、資本主義社会が成立し、欧米の近代化が進んだことも学びますね。

生徒には、これらの世界の動きと日本の歴史を関連付けて、この時代の特徴を考えてほしいですね。

このような世界の動きが、日本にどのような影響を与えたのかを考える単元の学習課題にしてみてもいいでしょうか。

単元の学習課題は、**<近代化を進めた欧米諸国がアジアに進出する中で、江戸幕府にどのような影響を与えたのか>**では、どうですか。

この単元の学習課題ならば、日本国内だけでなく、世界の動きにも目が向きそうですね。



生徒が世界の動きにも着目するような単元の学習課題にしたのですね。この単元については、**欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国への進出を基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへと進出したことを理解**できるよう指導することが大切です。これらの点を踏まえてどのような学習活動が考えられますか。

ポイント①
世界の動きとの関わりの中で我が国の歴史の流れを捉えることができるような学習課題を設定する。

資料1

ペリーの上陸

資料2

南蛮船の来航

単元の導入で、資料1と資料2を提示し、比較することで、船の違いから、産業の発展に気付いてほしいです。



2つの資料から船の変化を捉えると、欧米で何が起きたのかを考えることにつながりそうですね。他にも資料3や資料4を提示するのはどうでしょう。

資料3
幕末に来航した外国船の数
(国別にまとめたもの)



資料3に着目し、幕末に多くの外国船が日本に来航していることを捉え、その理由を資料4の年表から考える活動につながりそうですね。

資料4
17～19世紀の年表
(世界の出来事も記載)



このように世界の動きとの関わりの中で、日本の歴史を捉えることができるような仕掛けが必要ですね。



歴史的事象の変化を捉え、その変化の要因となる歴史的事象について、年表などから考える学習活動はとてもよいですね。
単元のまとめとして、市民革命や産業革命によって、近代化を進めた欧米諸国がアジアへ進出し、江戸幕府にどのような影響を与えたのかについて、自分の言葉で適切に表現することができる学習活動につながりそうですね。

ポイント②
世界の動きが日本の社会にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現することができるような学習活動を工夫する。

イ 事例2

学びの12か条+ 1・3

歴史的事象の原因や影響について、文献などの資料から適切に読み取った情報を基に考察し、表現する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
⑤(3)	歴史的分野	明治政府が地租改正の税率を変更した理由について、複数の資料を基に考察し、適切に表現することができる。	思考・判断・表現

(3) 下の□は、表の地租改正による影響について、資料1と資料2から読み取ったことをもとに考えられることをまとめたものである。下の□の中の□Xと□Yに当てはまる言葉を書きなさい。

[資料1]

年	主な一揆と発生地
1874年（明治7年）	租税返還要求 山形県
1876年（明治9年）	地租改正反対 茨城県
1876年（明治9年）	地租改正反対 三重県
1876年（明治9年）	地租改正反対 岐阜県
1876年（明治9年）	地租改正反対 愛知県

[資料2]

明治十年より この百分の二ヶ半（2.5%） 金七十三銭二厘 地租	地価 二十九円二十七銭一厘 この百分の三（3%） 金八十七銭八厘 地租
---	---

【資料1から分かること】

明治9年までに税の負担に関する一揆が各地で起きていることが分かる。

【資料2から分かること】

明治政府が明治10年より

□X
ことが分かる。

資料1と資料2から明治政府は、□Yのために、
地租改正に関する政策を変えたと考えられる。

	正答例	誤答例	
X	・地租を地価の3%から2.5%に下げた ・税率を下げた	・地価が2.5%に下がった ・各地で反対の一揆が起こった	
Y	・農民の負担を減らし、一揆が起きないようにする ・税の負担を減らし、一揆が起きないようにする	・政府の収入を安定させることで一揆を防ぐ ・収入を安定させるため	
	正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
X	28.5%（3.8%）	51.8%	19.8%
Y	43.6%（42.0%）	31.6%	24.7%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「明治政府が地租改正の税率を変更した理由について、複数の資料を基に考察し、適切に表現することができる」であり、Xの正答率は、28.5%、Yの正答率は43.6%と不十分である。誤答については、地租と地価の語句を適切に用いて表現することができていない解答や、資料から読み取った情報を適切に表現することが不十分な解答が多かった。要因としては、資料の読み取りに関わる語句や用語を正しく理解した上で、資料から適切に情報を読み取る学習活動が不十分であったことが考えられる。

指導に当たっては、文献などの資料を適切に読み取るために、読み取りに関わる語句や用語の意味を明確にした上で、資料から得られた情報を基に考察し、表現する学習活動を充実させることが必要である。

③ 改善事例 第2学年「明治維新と近代国家の形成」

1 指導のねらい

歴史的事象の原因や影響について、文献などの資料から適切に読み取った情報を基に考察し、表現することができる。

2 具体例

学習課題 く「地租改正」は、政府や人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか？

〈前半の学習活動〉

地券

資料1

国税における
地租の割合

地券や資料1などを活用し、地租改正がどのような制度であったのか、政府はどのような目的で地租改正を行い、それによって、政府にどのような影響があったのかについて、考察する。



地租改正によって、政府の収入が安定したことが分かりましたね。それでは、人々の生活には、どのような影響があったのでしょうか。予想してみましょう。

3%の税率だったら、負担は軽いのではないかな。だから、人々の生活には、そんなに影響がなかったと思うよ。



天候に左右されなくなったというのであれば、毎年決まった額を納めるということだね。決まった額を、毎年必ず納めるのは、人々にとって大変だったのではないかな。



予想を確かめるために、資料2を見てみましょう。



資料2からは、全国で一揆が起きていることが分かるね。



「地租改正反対」ということは、地租改正に不満があったということかな。つまり、地租改正は、人々にとって負担が重い制度だったということがいえるのではないかと思います。



一揆がたくさん起こっているけれど、政府はどう受け止めたのだろう。



もう一度地券を見てみましょう。

資料2

年	主な一揆と発生地
1874年（明治7年）	租税返還要求 山形県
1876年（明治9年）	地租改正反対 茨城県
1876年（明治9年）	地租改正反対 三重県
1876年（明治9年）	地租改正反対 岐阜県
1876年（明治9年）	地租改正反対 愛知県

政府は一揆をしずめるために、軍を派遣したのではないかな。



地券（一部）

明治十年より この百分の二ヶ半	地価 この百分の三 金八十七銭八厘	地租 この百分の二ヶ半 金七十三銭二厘
	地価 二十九円二十七銭一厘	地租

「明治十年より」と書いてあるよ。明治9年までに多くの一揆が起きていることを考えると、明治十年から何かの割合を変えたのではないかなあ。

地価が2.5%になったということかな。



そうかもしれないね。「百分の三」が、明治10年から「百分の二ヶ半」へと変わっているよ。3%から2.5%になったということかな。

そうかなあ。地租が2.5%になったということかもしれないよ。確かめてみようよ。

ポイント

資料を適切に読み取ることができるよう、読み取りに関わる用語や語句の意味を明確にした上で表現する。



黒板やノートを見て、前半の学習を振り返り、何が2.5%になったのか、確かめてみましょう。



地租改正は、地価を定めて、その地価の3%を地租として現金で納めさせる制度だったよ。



地価が2.5%になったのではなく、地価の2.5%を、地租として納めることになったということだね。



政府は、地租の税率を下げることで、人々の負担を減らし、一揆を防ごうとしたのだね。



そうですね。それでは、本時の学習課題についてまとめてみましょう。



地租改正によって、政府の収入は安定しましたが、人々の生活への負担は大きかったです。そのため、地租改正反対一揆が各地で起こりました。政府は、地租の税率を3%から2.5%に下げることによって人々の負担を減らし、一揆を防ごうとしました。

中学校第3学年 英語

県平均正答率	学校正答率
54.9%	%

(1) 全体的な傾向

令和7年度の平均正答率は54.9%で、到達状況は不十分である。領域別では、「聞くこと」の領域は、情報を正確に聞き取ることは概ね良好であるが、目的に応じて英語を聞き、情報を整理しながら、必要な情報を聞き取ることは不十分である。「読むこと」の領域では、簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み取ることは基準に達しているが、書かれた内容に対して自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などを捉えることに課題が見られる。「書くこと」の領域においては、知識を活用して、場面や状況に応じて英語を正しく書くことや、自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるように、語と語、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことに依然として課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【聞くこと】 (県平均正答率：63.6%) (学校正答率：%)

○：情報を正確に聞き取ること〔1〕

設問1の正答率は84.8%であり、概ね良好である。今後も日常的な話題について、必要な情報を聞き取る活動を意図的、継続的に行うことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1	No.1 短い英文の内容(場所)の聞き取り	84.9%	%
	No.2 短い英文の内容(起床時間)の聞き取り	84.6%	%

(県) H27：1 No.2

▼：目的に応じて英語を聞き、情報を整理しながら、必要な情報を聞き取ること〔4〕No. 2

設問4 No.2については、p.42参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4	No.2 情報を整理しながら必要な情報(練習しておくこと)の聞き取り	11.8%	%

(県) R3：事例1 H27：事例1

(全) R1、R5：3 (県) R2～R4：4 H28～H30：4

- ・目的や場面、状況などを理解し、どういった情報が必要であるかを考え、必要とする情報と関連する語句や表現を予測した上で、英語を聞くことができるような指導を行うこと
- ・自分が必要とする情報と関連する語句や表現に着目して英語を聞き、必要な情報を判断できるような指導を行ったり、端末を用いて聞き取れなかった部分を繰り返し聞いたりするように指導すること

【読むこと】 (県平均正答率：59.1%) (学校正答率：%)

◇：簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み取ること〔8〕

設問8の正答率は、76.0%であり、基準に到達している。今後も既習の語や文法事項等の知識を活用して、文構造を

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
8	簡単な文の正確な読み取り	76.0%	%

(全) R5：5(1) R1：5(3) (県) R2～R4：8

適切に捉えたり、動詞等の内容語を正確に読み取ったりしながら、書かれている内容や必要とする情報を読み取ることができるような指導を行うことが大切である。

▼：書かれた内容に対して自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などを捉えること〔10(3)〕

設問10(3)の正答率は20.6%であり、不十分である。要因としては、読み手として、内容を主体的に考えたり、判断したりしながら理解すること

ができるような指導や、目的や場面、状況などに応じて表現することができるような指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する自分の考えを話したり、書いたりして、領域統合を図った言語活動が十分行われるよう指導することが必要である。また、自分の考えを書いた英文を推敲する際には、目的や場面、状況などに応じて適切な内容になっているか、正確に書くことができるかを指導することも必要である。

【書くこと】 (県平均正答率：42.3%) (学校正答率： %)

▼：疑問詞を用いた一般動詞の3人称現在時制の疑問文を正確に書くこと〔6(3)〕

設問6(3)の正答率は17.2%であり、不十分である。要因としては、言語活動を通して、内容面だけでなく、正確性を高めるために、言語面からの指導が不十分であると考えられる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6 (3)	疑問詞を用いた一般動詞の3人称現在時制の疑問文の理解	17.2%	%

(県) R4：事例1 H27：事例2

(全) R5：9(1)② (県) R4：6(3)

指導に当たっては、場面や状況から文の形式や時制を適切に判断し、正確に書くことができるようにするために、言語活動を通して、生徒自身が英語表現の誤りに気づき、修正を加えながら正確さを高めていくような指導が必要である。また、疑問文を正しく活用できるまでには時間を要するため、疑問文を用いて話したり書いたりすることを、3年間を通じて継続的に行うことが必要である。

▼：自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるように、語と語、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと〔12〕

設問12については、p.44参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
12	まとまりのある英文を書くこと	30.1%	%

(県) R4：事例2 H26、H29：事例2

(全) R1、R5：10 (県) R2～R4：12 H28～H30：11

単元など内容や時間のまとまりを見通して、基本的な語彙や表現に親しむ機会を、「聞くこと」、「読むこと」及び「話すこと」の活動を通して多く与え、それらを「書くこと」の活動につなげていく段階的な指導を行うこと

指導改善のポイント

- ❑ 複数の情報が含まれるまとまりのある内容の英語を聞いて、聞き手として目的に応じて、必要な情報を聞き取る力を高める学習活動を充実すること (→ 事例1)
- ❑ 単元を通して統合的な言語活動を適切に位置付けながら、言語活動を通して得た知識及び技能を活用する学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1

学びの12か条+ 1・7

複数の情報が含まれるまとまりのある内容の英語を聞いて、聞き手として目的に応じて、必要な情報を聞き取る力を高める指導を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
④ No.2	聞くこと	目的に応じて英語を聞き、情報を整理しながら、必要な情報を聞き取ることができる。	思考・判断・表現

④ (リスニング問題文)

次に、問題④に移ります。この問題では、ALT のデービス先生が、英語クラブの活動の終わりに、イングリッシュキャンプについて説明をしています。久美さんは必要な情報をメモにまとめています。問題用紙の《メモ》の No.1 ～ No.3 にあてはまる日本語もしくは数字を解答用紙に書きなさい。英語は2回流れます。

それでは、始めます。

Tomorrow, we'll have an English camp. Let's meet in front of the school at seven a.m. Don't be late, OK? We'll take a bus near the school at seven ten a.m. In the morning, you'll meet students from other schools and introduce yourself to them, so please practice that. Around noon, we'll make curry and rice together, so you don't need to bring lunch. In the afternoon, we'll go hiking. It may be rainy, so please bring an umbrella. Do you have any questions?

《メモ》

- ・ 集合時間： 午前 (No. 1)
 - ・ 練習しておくこと： (No. 2)
 - ・ 持ち物： (No. 3)

正答例	誤答例	
自己紹介	・ カレーの作り方 ・ 他の学校の人と話す ・ 料理	
正答率 (準正答率)	誤答率	無解答率
11.8% (0.0%)	64.0%	24.2%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「目的に応じて英語を聞き、情報を整理しながら、必要な情報を聞き取ることができる」であり、正答率は11.8%と不十分である。要因としては、自分が必要とする情報やそれに関連する語句や表現を聞き取ることができるようにするための指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、目的や場面、状況などを理解し、どういった情報が必要であるかを考え、必要とする情報と関連する語句や表現を予測した上で、英語を聞くことができるような指導を行うことが必要である。また、自分が必要とする情報と関連する語句や表現に着目して英語を聞き、必要な情報を判断できるような指導を行ったり、端末を用いて、聞き取れなかった部分を繰り返し聞いたりするように指導するなど、正確に聞き取る活動に継続的に取り組む必要がある。

③ 改善事例 全学年（学年段階に応じて）

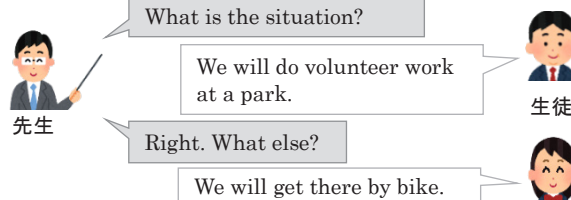
1 指導のねらい

複数の情報が含まれるまとまりのある内容の英語を聞いて、聞き手として目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができる。

2 具体例

【導入】目的や場面、状況などを明確にする

あなたの学校では、明日、公園でボランティア活動が行われます。あなたは自転車で現地に向かいます。これから、その活動について説明を聞くところです。

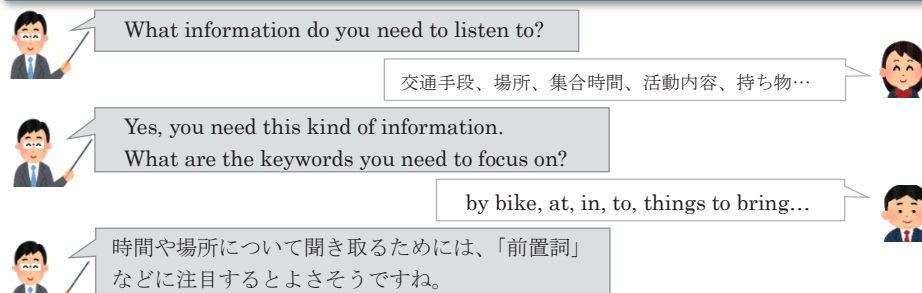


指導のポイント

【導入】

コミュニケーションの目的や場面、状況などを設定し、ALT の話を聞いたり、教師とやり取りをしたりしながら、聞く目的を理解し、見通しをもつことができるようにする。

【展開①】どのような情報が必要かを考え、その情報に関連する語句や表現を予測する



【展開①】

話されることのすべてを聞き取ろうとするのではなく、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分が必要とする情報は何かを把握するよう指導する。

【メモ】	活動内容	volunteer work
	予想される語句	at a.m. clean will bring have to in by bike to lunch umbrella

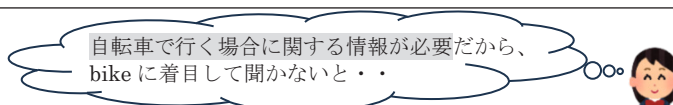
生徒とのやり取りを通して、必要とする情報と、それらに関連する語句や表現について、生徒から語句を引き出すよう工夫する。生徒の発言を英語で言い換えたり、板書したりする。

【展開②】自分が必要とする情報と関連する語句や表現に着目して英語を聞き、必要な情報を判断する

We are going to clean Midori Park tomorrow. You can choose how to get there. If you go by bike, please arrive at the park by 8:30 a.m. If you take the bus from school, please come to the school gate by 8:00 a.m. The bus will take you to Midori Park. Everyone will meet at the park at 8:30 a.m. If you are late, please call Ms. Takai at school first, and then come to Midori Park. It will be sunny and hot tomorrow, so you should bring a cap. We will finish cleaning at 11 a.m., so you don't need to bring lunch. I'll give you some water and tea. Do you have any questions?

【展開②】

必要な情報を聞き取る際、メモをした予測される語句や表現に着目して、必要な情報と必要としない情報を判断するように指導する。



【メモ】	活動内容	volunteer work
	予想される語句	at a.m. clean will bring have to in by bike to lunch umbrella
	聞き取った語句	go to the park at 8:30 Midori Park a cap at 8

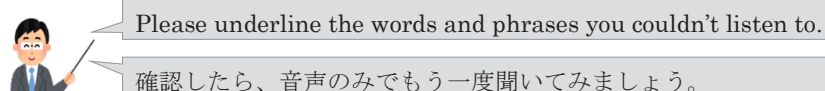
【展開③、④】

ペアやグループで、聞き取った情報を共有することで、相手の情報から気付きを促す。必要に応じて、各自端末を利用してもう一度英文を聞き、聞き逃していた情報や表現を確認するよう促す。

【展開③】聞き取った情報をペアまたはグループで共有したり、全体で共有したりする

【展開④】聞き取れなかった部分を端末で繰り返し聞く

（スクリプトを活用する。）



情報を正確に聞き取るために、スクリプトを活用して、聞き取れなかった箇所に下線を引き、語句や表現を確認したり、音の連結や変化、強弱などがある部分を確認したりするよう指導する。

【まとめ】学んだことを他の場面や状況で活用する

イ 事例2

単元を通して統合的な言語活動を適切に位置付けながら、言語活動を通して得た知識及び技能を活用する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
12	書くこと	自分の考えや気持ちなどが伝わるように、語と語、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことができる。	思考・判断・表現

12

あなたの学校は、海外の姉妹校と交流をしています。相手校の生徒のトム (Tom) さんからあなたの将来の夢やこれからやってみたいことについて知りたいというメールが来ました。あなたの将来の夢やこれからやってみたいことについて、理由を含む 20 語以上のまとまりのある英語の文章で、返信するメール文を書きなさい。

なお、必要があれば、下の [] 内の「職業名の例」を使用してもかまいません。

※ 短縮形 (I'm や don't) は 1 語と数え、符号 (, や ? など) は語数に含めません。

(例) No. I'm not. 【3 語】

【メール文】

Dear Tom,

Thank you for your email. I'll tell you about my dream.

Your friend,

○○○ (あなたの名前が書いてあるものとします。)

〔職業名の例〕

actor 俳優 pilot パイロット vet 獣医
 game designer ゲームデザイナー writer 作家
 voice actor 声優 architect 建築家 fire fighter 消防士
 photographer 写真家 police officer 警察官
 confectioner パティシエ

正答例

- ・ I want to be a doctor like my mother. She helps sick people every day. I also want to help people in need. (23 語)
- ・ My dream is to be a farmer. I like fresh vegetables. They are important for our health, so I want to grow healthy vegetables for everyone. (26 語)
- ・ I want to travel around the world to meet people from different countries. I also want to learn about their cultures. It will be fun. (25 語)

誤答例

- ・ My dream is to be a teacher. My father teaches at Junior High School. He is good at English, so he is a great teacher.
(目的や場面、状況に応じた内容になっていない。)
 - ・ I want pictures take.
(コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがある。)
- 文のつながりがよくないもの。(同様の形式の繰り返し)
 (例) I want to be a doctor. I want to help people.
 I want to work abroad.
 I want to help children.

正答率 (準正答率)

30.1% (24.3%)

誤答率

50.9%

無解答率

19.0%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「自分の考えや気持ちなどが伝わるように、語と語、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことができる」であり、正答率は 30.1% と不十分である。要因としては、コミュニケーションの目的や場面、状況などを十分に理解した上で、まとまりのある文章を書くことができるようにするための指導や、言語材料に関する知識の定着を図る指導が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、単元など内容や時間のまとまりを見通して、基本的な語彙や表現に親しむ機会を、「聞くこと」「読むこと」及び「話すこと」の活動を通して多く与え、それらを「書くこと」の活動につなげていく段階的な指導が必要である。また、つまづいている生徒への内容面・言語面の指導を充実させることが必要である。

③ 改善事例 全学年（学年段階に応じて）

1 指導のねらい

単元のゴールに向けて、単元全体を通して統合的な言語活動を適切に位置付けながら、聞いたり、読んだりして得た知識などを活用して表現する力を高めることができる。

2 具体例 「書くこと」の単元計画 単元名：My Dream（第2学年1学期）



ベテラン先生

単元を通して、「聞くこと」「読むこと」及び「話すこと」の活動と統合した「書くこと」の活動を段階的に行うことが大切です。単元と一緒に構成してみましょう。



若手先生

まとまりのある文章を書くための指導のポイントを教えてください。

単元のゴール

あなたの学校は、海外の姉妹校と交流をしています。相手校の生徒のトム（Tom）さんからあなたの将来の夢やこれからやってみたいことについて知りたいというメールが来ました。あなたの将来の夢やこれからやってみたいことについてメールで返信しましょう。

（目指すゴールの姿の例）I want to be a farmer. I have two reasons. First, I like fresh vegetables. They are good for our health, so I want to grow healthy vegetables. Second, I am interested in technology. Farmers use technology to do many things. For example, they use drones to monitor crops. I want to learn about technology to improve farming. To be a farmer, I have a lot of things to do. I will do my best.



指導のポイント

【単元ゴールの設定】

- ・単元を貫いて、生徒が主体的に取り組むことができるような単元のゴールを設定する。
- ・目指すゴールの姿をイメージする。単元の目標を達成するために、毎時間の活動を関連付ける。

見通しをもてるようにしたり、見方・考え方を働かせたりすることができるように、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確にする。

【単元を通して】

- ・単元のゴールにつながる言語活動を繰り返し設定し、ステップで単元を構成する。
- ・その際には生徒のつまずきを想定する。内容面では、表現する内容を深めるための活動を適宜設定し、言語面では正確性を高めるための指導を行う。

単元を通して、領域統合の言語活動を複数回設定する。

まとまりのある文が書けるように、読むことを通して、読み手に伝わりやすい内容や順序、構成、接続詞の使い方などを学んだ上で書くといった「読むこと」の領域との統合を図る。

- ・つまずいている生徒には、手本となるような文章を提示し、その表現を活用したり、入れ替えたりしながら書き方を指導した上で、自分の力で書くことができるようにする。
- ・将来の夢だけでなく、高校でしたいことや「～になりたい」という内容のモデル文も紹介し、書く内容の手がかりとする。

時	ねらい（■）、言語活動等（丸数字）
1	■単元の目標を理解するとともに、職場体験に行きたい場所について伝え合う。【話・や】 ①姉妹校の生徒トム（Tom）からのメールを読み、単元で行う言語活動の見通しをもつ。 ②職場体験に行きたい場所についてペアで伝え合う。
2	■将来の夢ややってみたいことをペアで伝え合う。【話・や】 ①教科書の内容理解を通して不定詞（名詞用法）の使い方を知る。 ②将来の夢ややってみたいことについて、ペアで尋ねたり答えたりして伝え合う。
3	■職業人の写真を見て、どんなことを何のためにしているのかを説明する。【聞／書】 ①教科書の内容理解を通して不定詞（副詞用法）の使い方を知る。 ②職場体験先についての対話を聞いて、どんなことを何のためにしているのか理解し、聞いた内容を書く。
4	■将来の夢などに向けてすべきことについてペアで伝え合ったり、メッセージを書いたりする。【話・や／書】 ①教科書の内容理解を通して不定詞（形容詞用法）の使い方を知る。 ②将来の夢ややってみたいことに向けてすべきことについて、メモをもとに、ペアで伝え合ったり、相手にメッセージを書いたりする。
5	■教科書の本文を読んで、登場人物の将来の夢や将来してみたいこと、読み手に分かりやすい順序や構成などを理解する。【読／書】 ①本文を読んで、概要や要点を捉える。 ②本文を通して、どのような内容や順序、構成が読み手に伝わりやすいかを知る。 ③本文を通して、接続詞の使い方を知る。
6	■教科書の本文を読んで、登場人物の将来の夢や将来してみたいこと、読み手に分かりやすい順序や構成などを考え、まとまりのある文章を書く。【読／書】 ①本文を読み、事実や自身の考え、気持ち等を整理する。 ②読み手にとって分かりやすい順序、文と文のつながりを考え、自身の将来の夢についての文章を書く。
7	■姉妹校の交流相手に自分の夢や将来してみたいことが伝わるように、まとまりのある文章を書く。【書／読】 ①前時に書いた文章を友達と読み合い、コメント（言語面、内容面）を書く。（端末の活用） ②コメントをもとに、読み手に分かりやすい順序や文と文のつながりを考え、自分の文章を改善する。
8	■姉妹校の交流相手に自分の夢ややってみたいことを発表し、文章を推敲する。【話・発／書】 ①グループで発表し、質問したり感想を述べたりする。 ②再度文章を推敲し、メールを書く。

Ⅱ 質問調査結果の分析・考察

1 小学校第4学年児童の調査結果

令和7年度は全公立小学校（義務教育学校を含む）における第4学年の全児童を対象、令和5年度・6年度は抽出学級（各学校1学級）の児童を対象とした。

学校が好き、各教科等の勉強が好き、各教科の授業の内容がよく分かれると答えた児童の割合は、これまでと同様に、ほとんどの教科・領域で80%以上、高いものは90%を上回っており、全般的に小4児童の学習意欲は、概ね良好である。

学びの12か条+ 2

- 「問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」（84.8%）児童の割合は、これまでと同様に高い。今後も、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めることが大切である。

学びの12か条+ 4

- 「授業では、自分の考えを発言したり、発表したりする場があったと思う」（82.0%）児童の割合は、これまでと同様に高く、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている」（95.4%）児童の割合は、調査開始以来最も高い。

学びの12か条+ 8

- 家庭での学習時間について、「学校の宿題をしている」（95.1%）児童の割合は、これまでと同様に高い。
- 「携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットを30分以上している」（48.4%）児童の割合は、調査開始以来最も高い。今後も、学習面や生活面においてどのような影響を与えるのか注視していく必要がある。
- 「学校のきまりを守っている」（93.3%）、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」（94.6%）児童の割合は、これまでと同様にいずれも高い。

以上のことより、学力・学習を支える基盤づくりについては、概ね良好である。

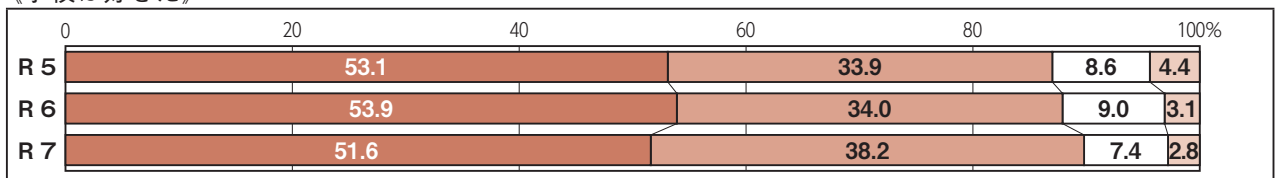
※無回答を除いた割合で示している。

1

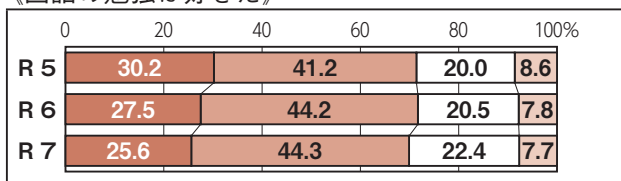
学校や各教科等の勉強は好きですか。授業の内容はよく分かりますか。

☒ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば当てはまる
 ☐ どちらかといえば当てはまらない
 ☐ 当てはまらない

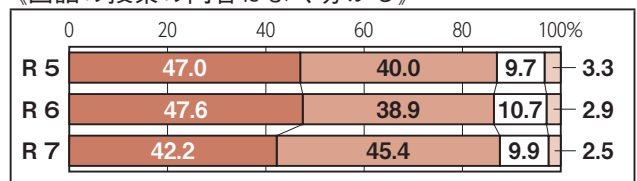
《学校は好きだ》



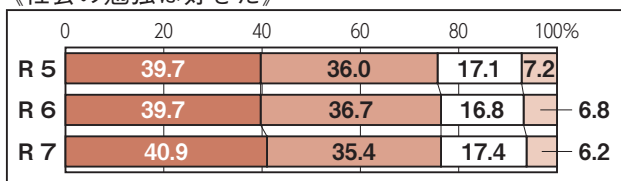
《国語の勉強は好きだ》



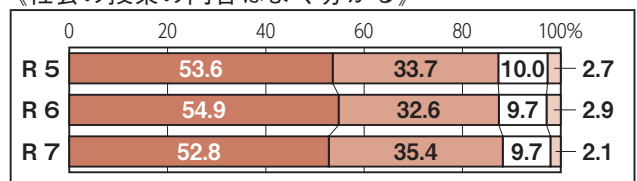
《国語の授業の内容はよく分かる》



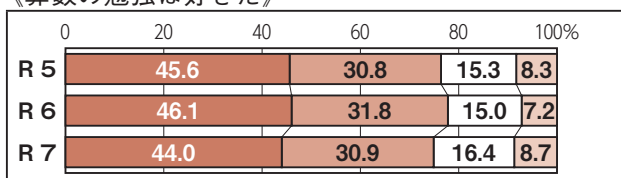
《社会の勉強は好きだ》



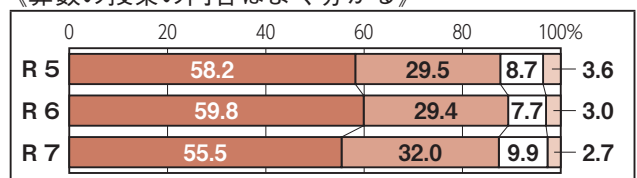
《社会の授業の内容はよく分かる》



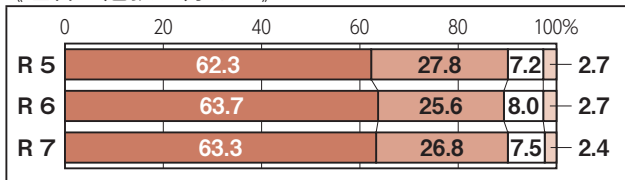
《算数の勉強は好きだ》



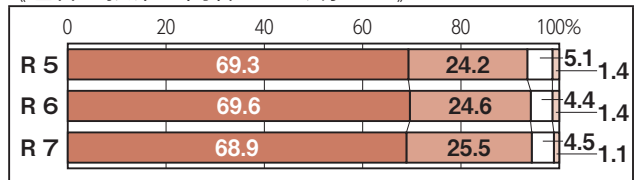
《算数の授業の内容はよく分かる》



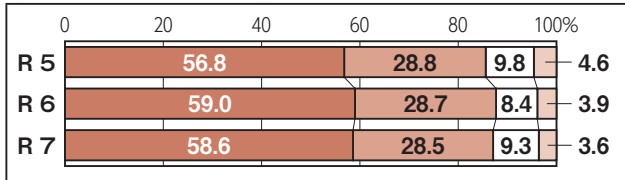
《理科の勉強は好きだ》



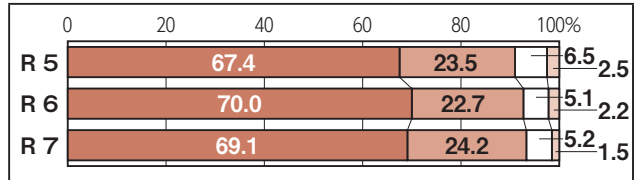
《理科の授業の内容はよく分かる》



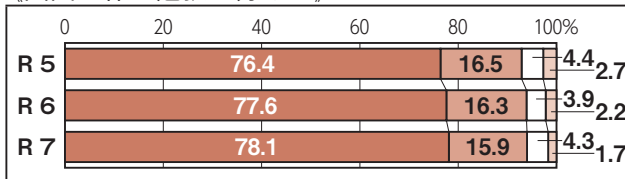
《音楽の勉強は好きだ》



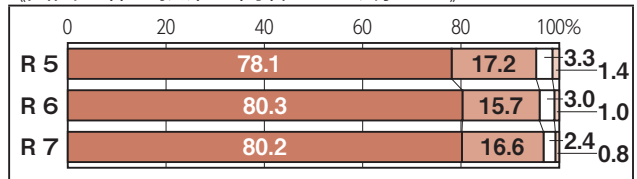
《音楽の授業の内容はよく分かる》



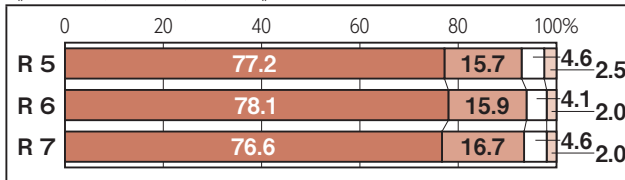
《図画工作の勉強は好きだ》



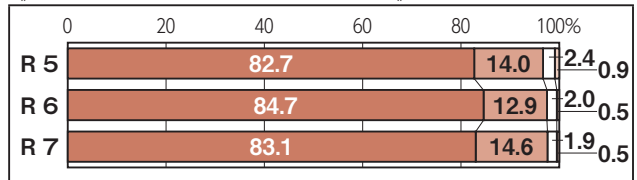
《図画工作の授業の内容はよく分かる》



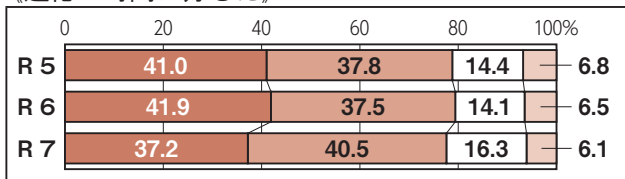
《体育の勉強は好きだ》



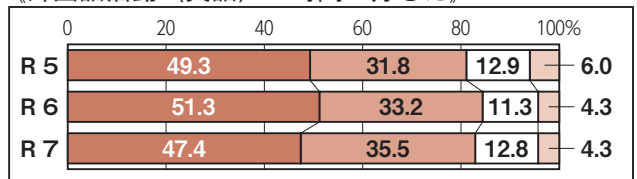
《体育の授業の内容はよく分かる》



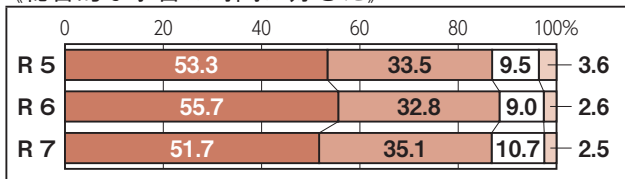
《道徳の時間は好きだ》



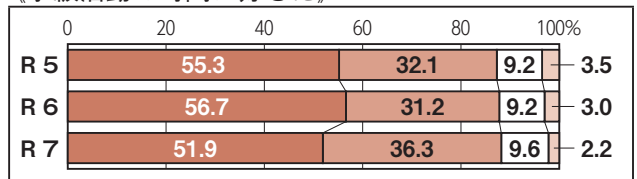
《外国語活動（英語）の時間は好きだ》



《総合的な学習の時間は好きだ》



《学級活動の時間は好きだ》

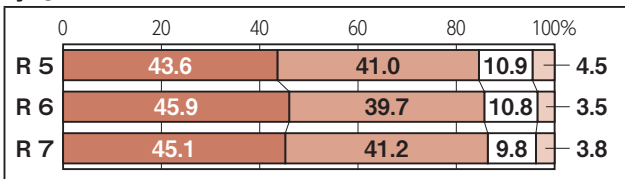


- ・《学校は好きだ》について、肯定的な回答をした児童の割合は、89.8%であり、調査開始以来最も高い。
- ・《音楽の授業の内容はよく分かる》《図画工作の授業の内容はよく分かる》について、肯定的な回答をした児童の割合は、それぞれ93.3%、96.8%であり、調査開始以来最も高い。

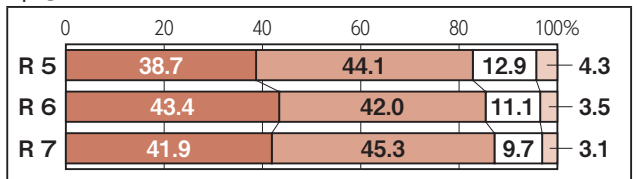
<参考>

《学校は好きだ》

小6



中3



- ・《学校は好きだ》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小6で86.3%、中3で87.2%であり、中3は調査開始以来最も高い。

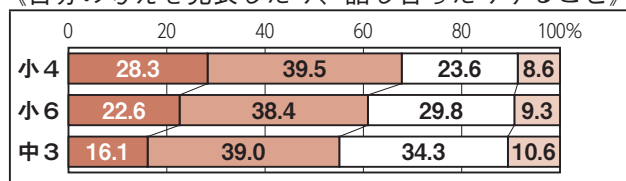
2

授業の中で次のようなことは好きですか。

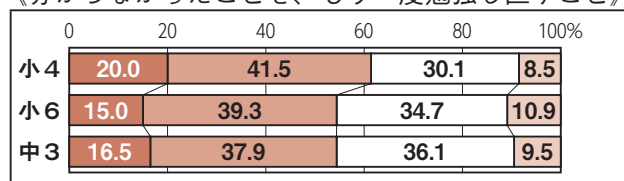
☒ 好き
 ☒ どちらかといえば好き
 ☐ どちらかといえば好きではない
 ☐ 好きではない

<学年間比較>

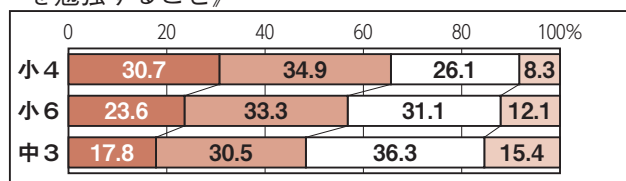
《自分の考えを発表したり、話し合ったりすること》



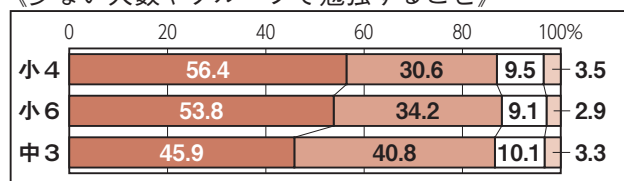
《分らなかったことを、もう一度勉強し直すこと》



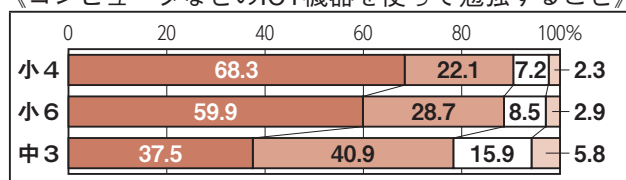
《教科書に出ていないことや、もっとくわしいことを勉強すること》



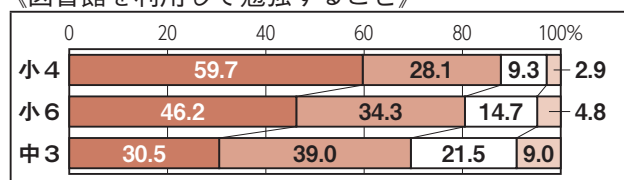
《少ない人数やグループで勉強すること》



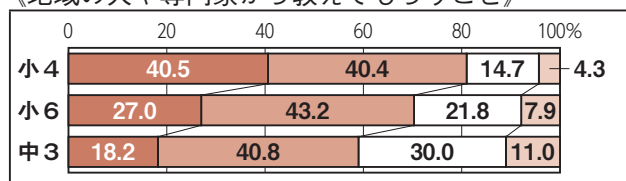
《コンピュータなどのICT機器を使って勉強すること》



《図書館を利用して勉強すること》



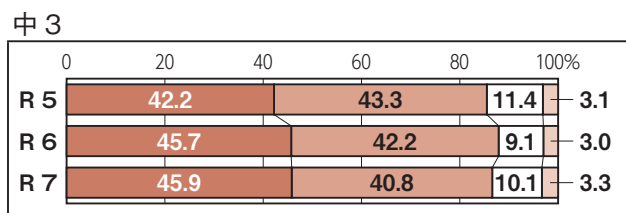
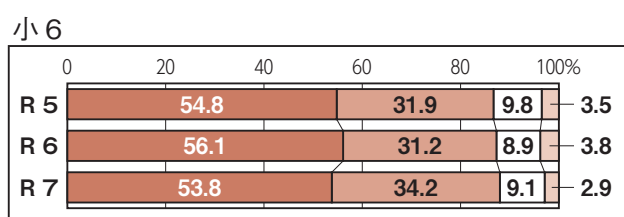
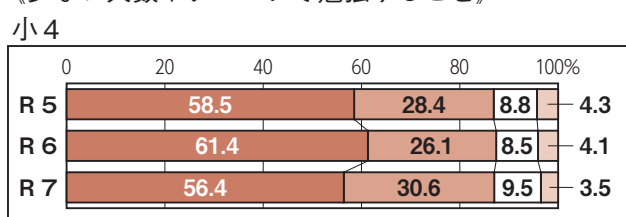
《地域の人や専門家から教えてもらうこと》



・《少ない人数やグループで勉強すること》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小4で87.0%、小6で88.0%、中3で86.7%であり、いずれの学年においても高い。

<参考>

《少ない人数やグループで勉強すること》



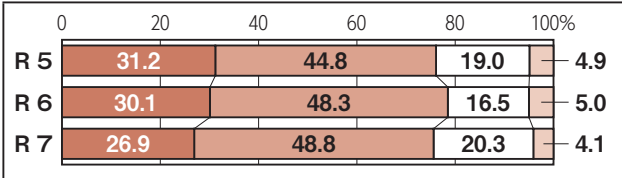
・《少ない人数やグループで勉強すること》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、R5年度からR7年度において、小4で86.9%～87.5%、小6で86.7%～88.0%、中3で85.5%～87.9%であり、いずれの学年においても高い割合で推移している。

3

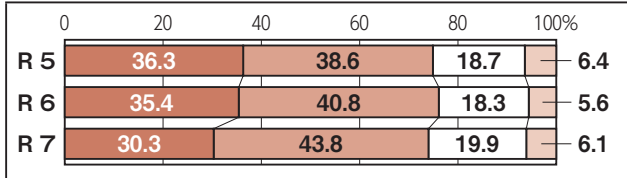
次のことは、あなたにどれくらい当てはまりますか。

☐ 当てはまる
 ☐ どちらかといえば当てはまる
 ☐ どちらかといえば当てはまらない
 ☐ 当てはまらない

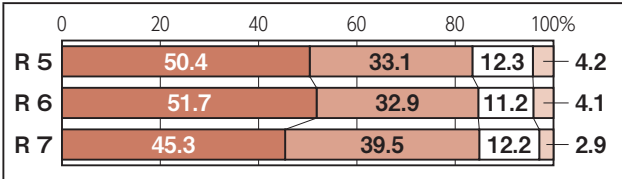
《授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う》



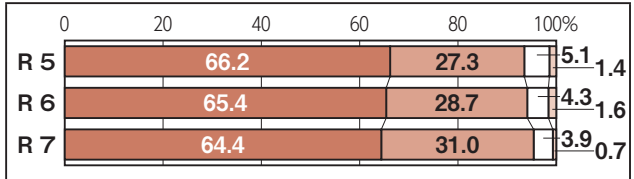
《授業で学習したことを、ふだんの生活で生かせないか考える》



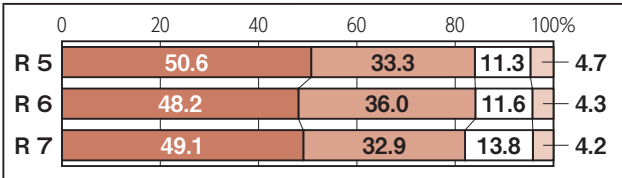
《問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える》



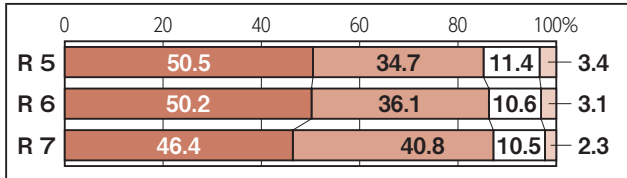
《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》



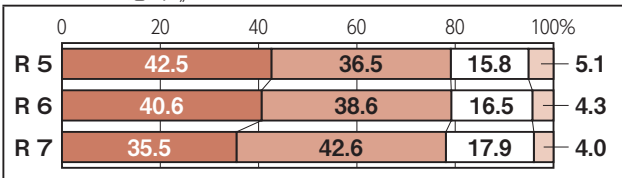
《授業では、自分の考えを発言したり、発表したりする場があったと思う》*1



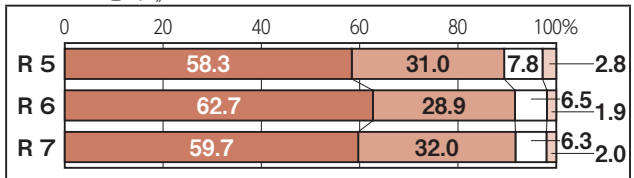
《授業の中で目標（めあて・ねらい・課題）が示されていたと思う》



《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》



《先生は、授業やテストで間違えたところや、分からないところについて、分かるまで教えてくれていると思う》*2

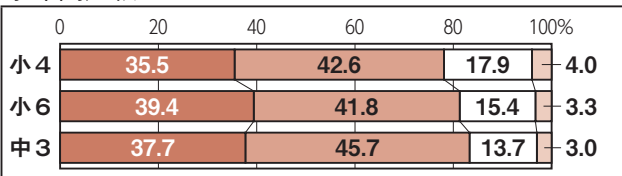


- ・《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、95.4%であり、調査開始以来最も高い。
- ・《先生は、授業やテストで間違えたところや、分からないところについて、分かるまで教えてくれていると思う》について、肯定的な回答をした児童の割合は、91.7%であり、調査開始以来最も高い。

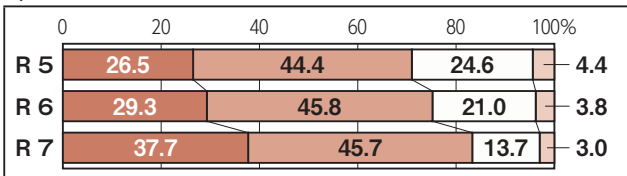
<参考>

《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》

学年間比較



中3



- ・《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》について、肯定的な回答をした生徒の割合は、中3で83.4%であり、調査開始以来最も高く、R 6年度より8.3ポイント増加している。

*1 R 6年度までは「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていたと思う」

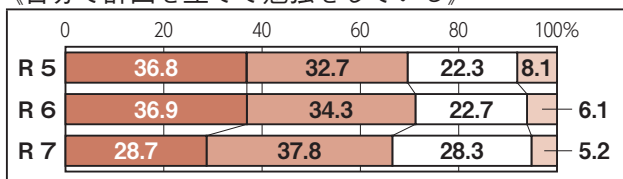
*2 R 5年度は「先生は、授業やテストで間違えたところや、分からないところについて、分かるまで教えてくれる」

4

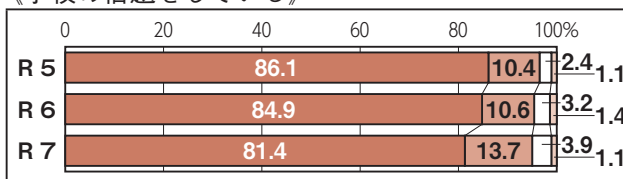
家で次のようなことをしていますか。

☒ している
 ☒ どちらかといえばしている
 ☐ あまりしていない
 ☐ 全くしていない

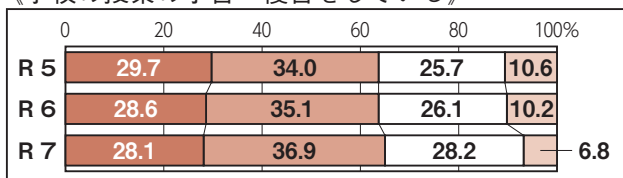
《自分で計画を立てて勉強をしている》



《学校の宿題をしている》



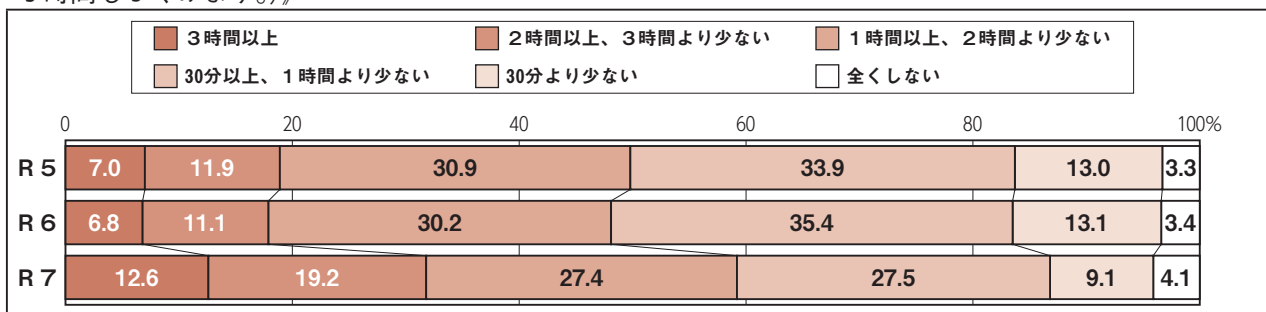
《学校の授業の予習・復習をしている》



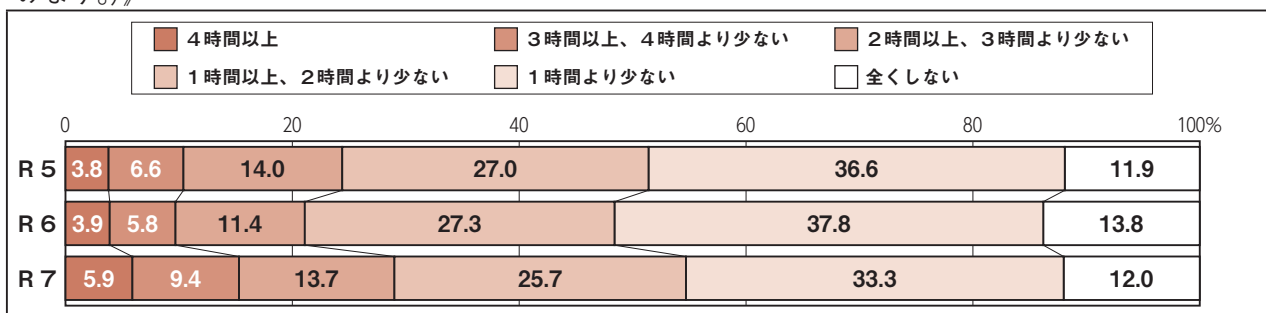
- ・《自分で計画を立てて勉強をしている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、66.5%であり、R 6 年度より 4.7 ポイント減少している。
- ・《学校の宿題をしている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、95.1%であり、これまでと同様に高い。

5

《あなたは、学校の授業時間以外に、ふだん（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間もふくみます。）》



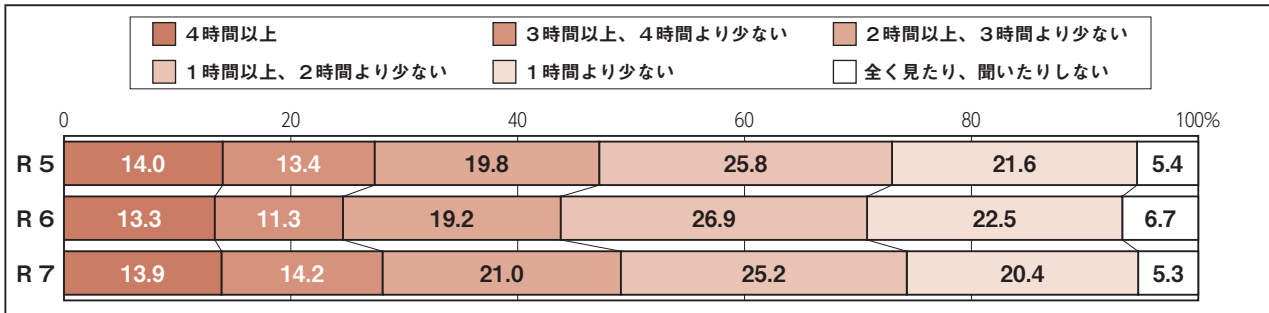
《あなたは、土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間もふくみます。）》



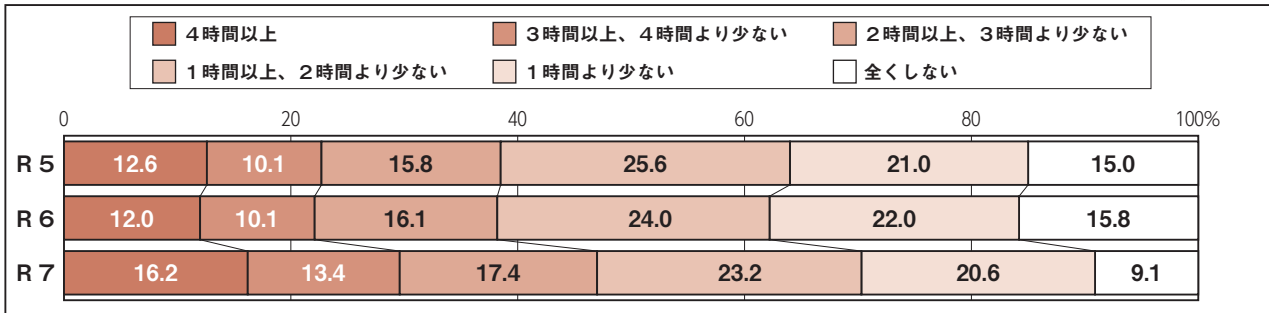
- ・普段の家庭学習時間について、勉強する時間が「1 時間以上」と答えた児童の割合は、59.2%であり、調査開始以来最も高く、R 6 年度より 11.1 ポイント増加している。
- ・休日の家庭学習時間について、勉強する時間が「1 時間以上」と答えた児童の割合は、54.7%であり、R 6 年度より 6.3 ポイント増加している。

6

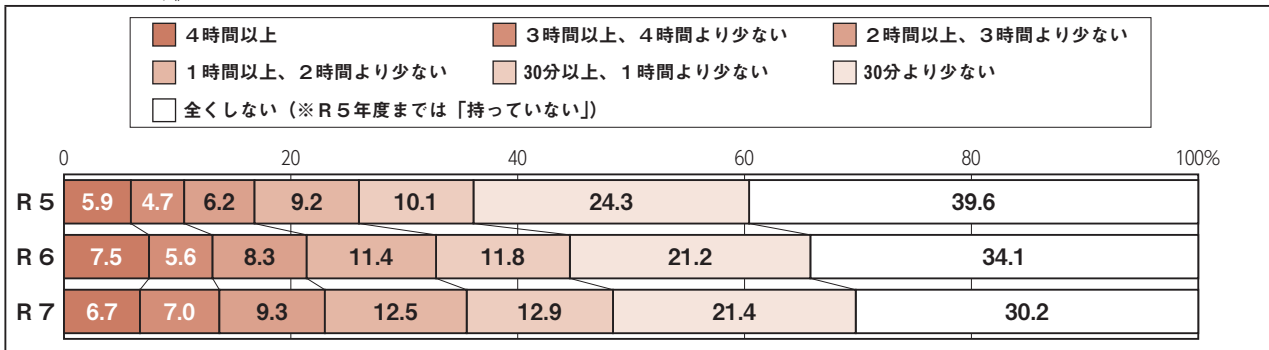
《あなたは、ふだん（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVD などを見たり、聞いたりしますか。（勉強のためのテレビやビデオ・DVD などを見る時間、テレビゲームをする時間はのぞきます。）》



《あなたは、ふだん（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを使ったゲームもふくみます。）をしますか。》



《あなたは、ふだん（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンなどを使ってゲームをする時間はのぞきます。）》



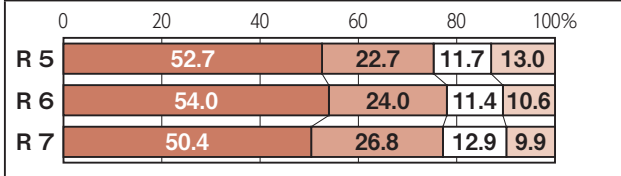
- ・ 普段のテレビやビデオ・DVD などを見たり、聞いたりする時間が「2時間以上」と答えた児童の割合は、49.1%であり、R 6 年度より 5.3 ポイント増加している。
- ・ 普段のテレビゲームをする時間が「2時間以上」と答えた児童の割合は、47.0%であり、調査開始以来最も高く、R 6 年度より 8.8 ポイント増加している。
- ・ 普段の携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをする時間について、「30 分以上」と答えた児童の割合は、48.4%であり、調査開始以来最も高く、R 6 年度より 3.8 ポイント増加している。

7

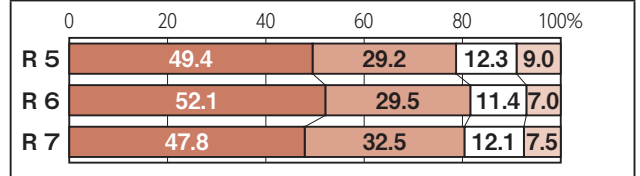
次のことは、あなたにどれくらい当てはまりますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる □ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

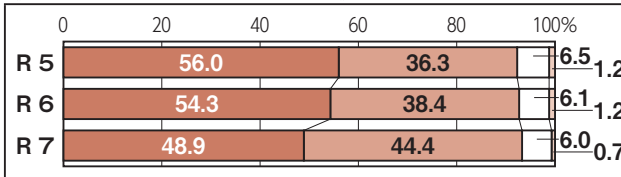
《テレビを見る時間やテレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを使ったゲームもふくみます。）をする時間などのルールを家の人と決めている》



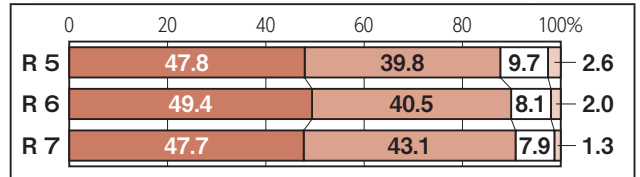
《学校での出来事について、家の人（兄弟姉妹はふくみません。）と話している》



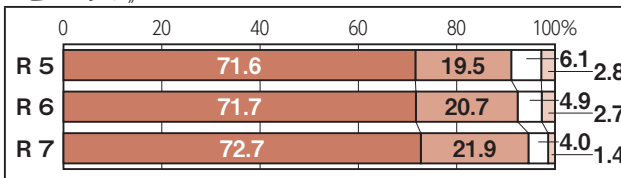
《学校のきまりを守っている》



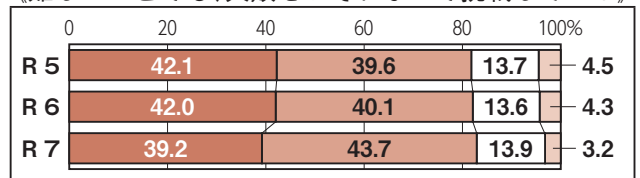
《人が困っているときは、進んで助けている》



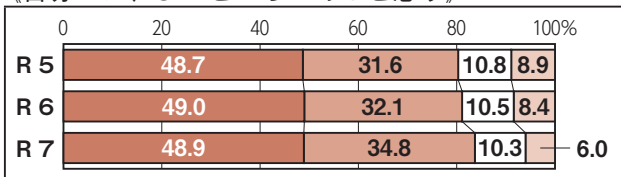
《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



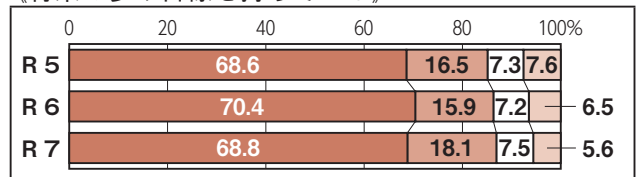
《難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している》



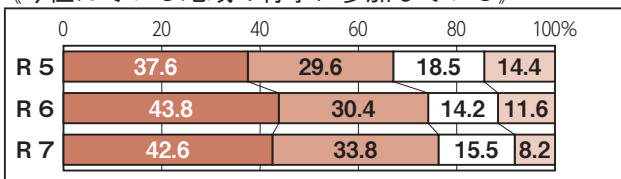
《自分には、よいところがあると思う》



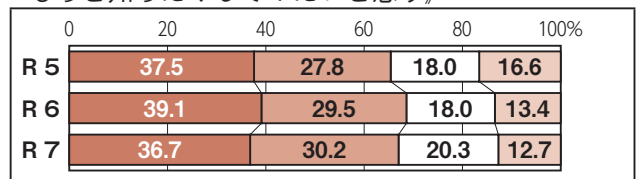
《将来の夢や目標を持っている》



《今住んでいる地域の行事に参加している》



《外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う》



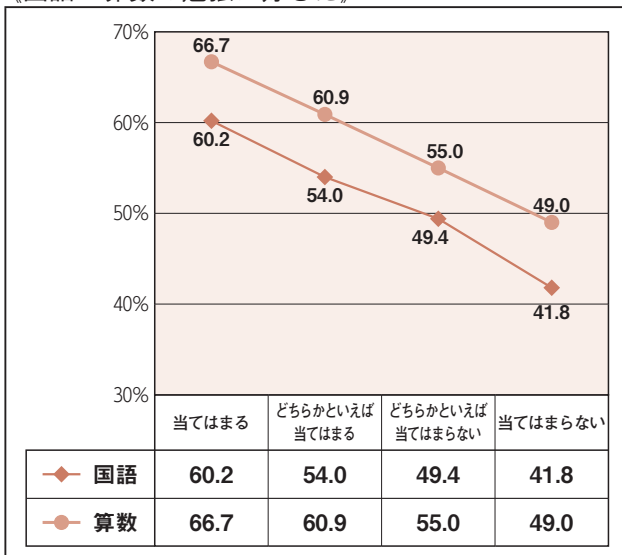
- ・《人が困っているときは、進んで助けている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、90.8%であり、調査開始以来最も高い。
- ・《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》について、肯定的な回答をした児童の割合は、94.6%であり、調査開始以来最も高い。
- ・《自分には、よいところがあると思う》について、肯定的な回答をした児童の割合は、83.7%であり、調査開始以来最も高い。

2 学習・生活状況と正答率との関係

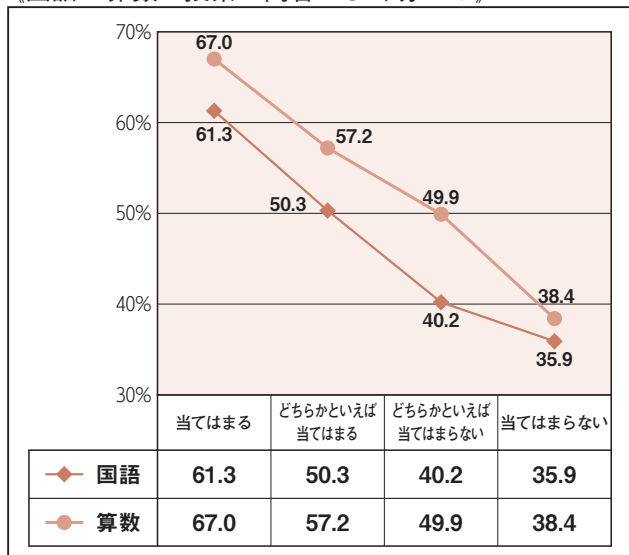
○小4児童の学習・生活状況について、以下のように回答している児童の方が、教科（国語・算数）の正答率が高い傾向が見られる。

- ・国語・算数の勉強は好きだ。
- ・国語・算数の授業の内容はよく分かる。
- ・分からなかったことを、もう一度勉強し直すことが好きだ。
- ・教科書に出ていないことや、もっとくわしいことを勉強することが好きだ。
- ・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。
- ・問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- ・友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている。
- ・授業では、自分の考えを発言したり、発表したりする場があったと思う。
- ・授業の中で目標（めあて・ねらい・課題）が示されていたと思う。
- ・授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。
- ・自分で計画を立てて勉強をしている。
- ・学校の宿題をしている。
- ・ふだん（月曜日から金曜日）、携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをする1日当たりの時間が少ない、または全くしない。
- ・学校のきまりを守っている。

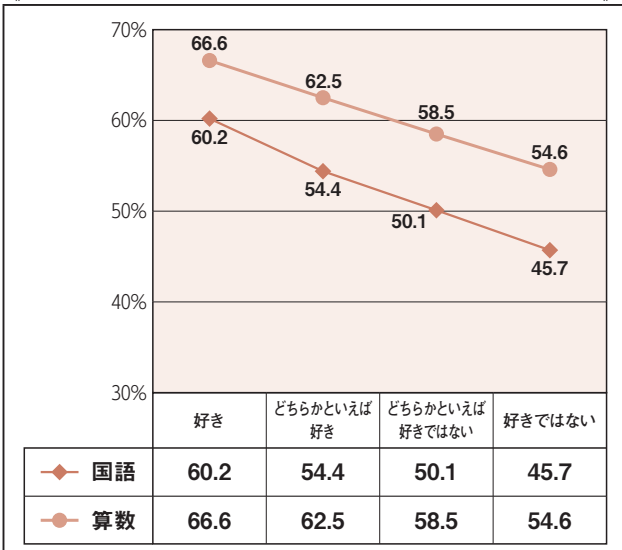
《国語・算数の勉強は好きだ》



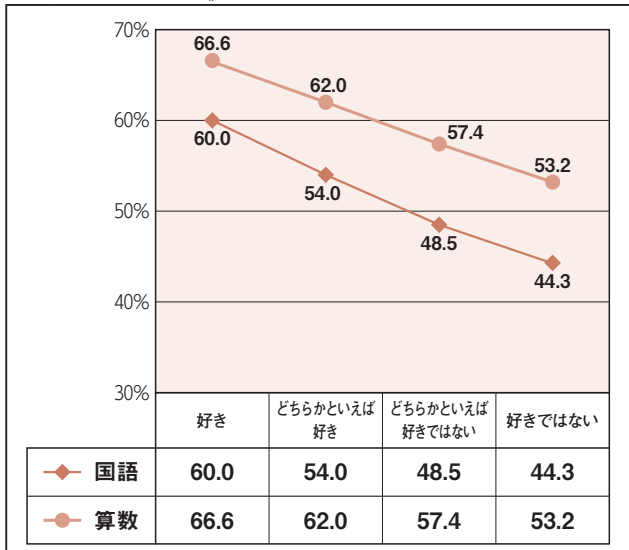
《国語・算数の授業の内容はよく分かる》



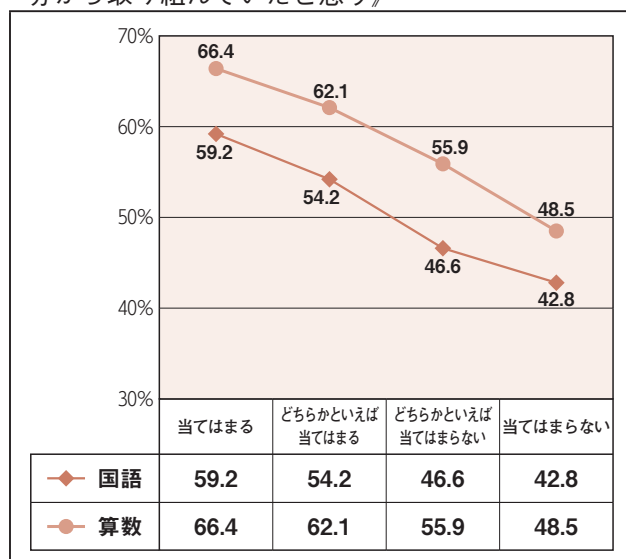
《分からなかったことを、もう一度勉強し直すこと》



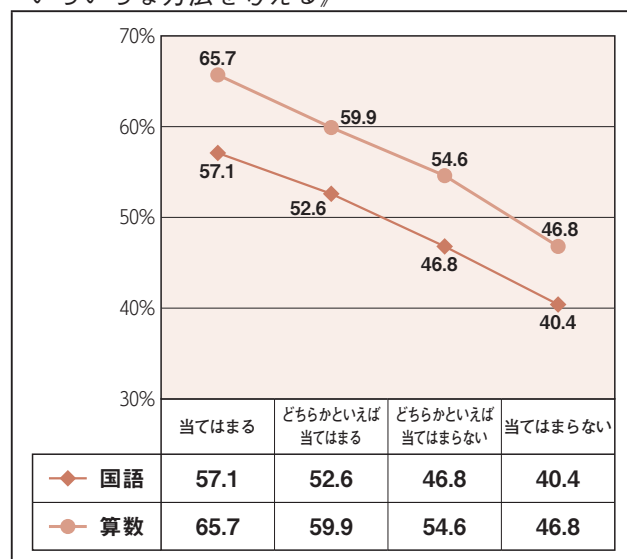
《教科書に出ていないことや、もっとくわしいことを勉強すること》



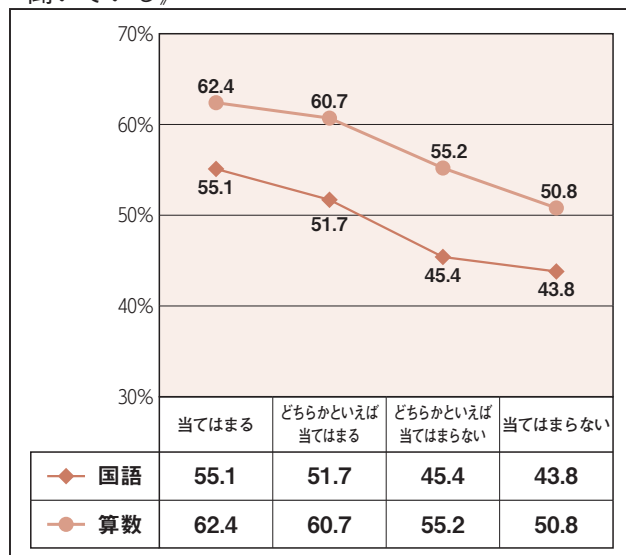
《授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う》



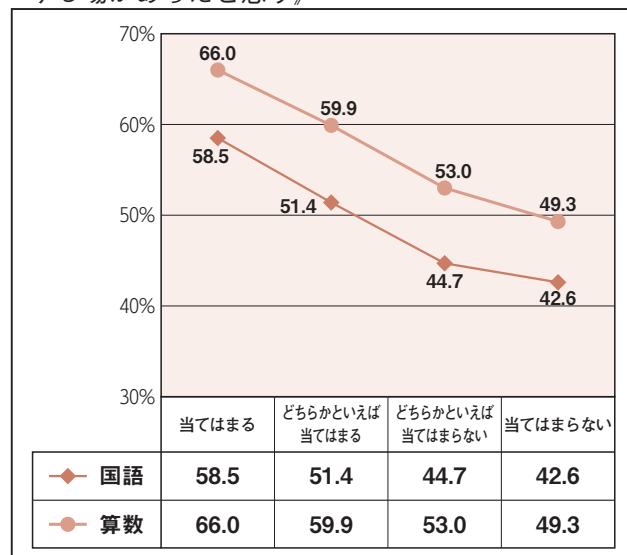
《問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える》



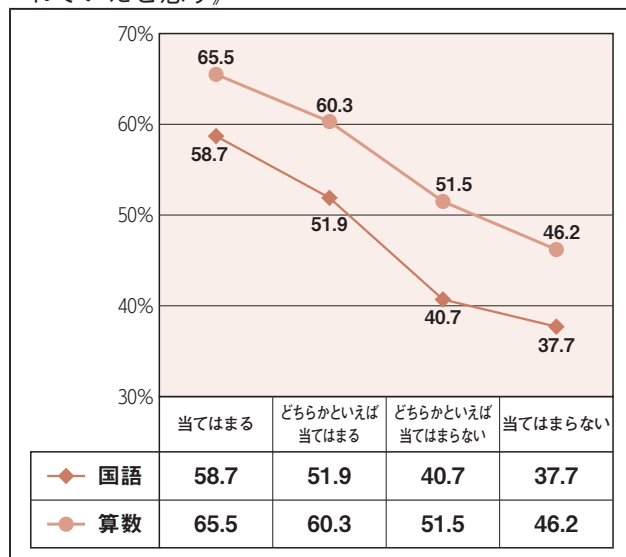
《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》



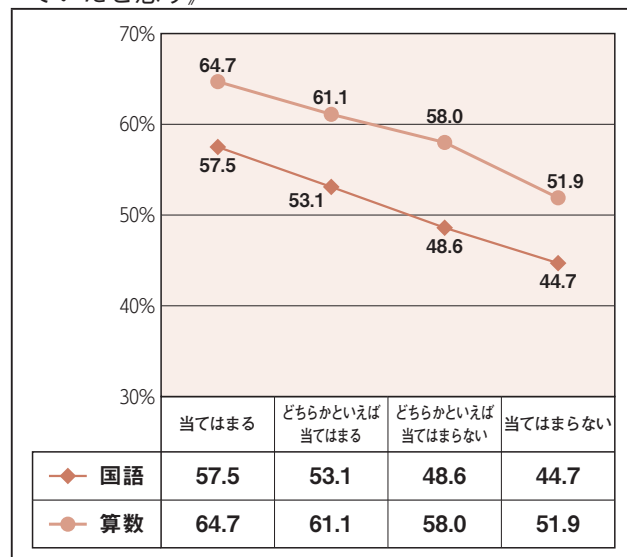
《授業では、自分の考えを発言したり、発表したりする場があったと思う》



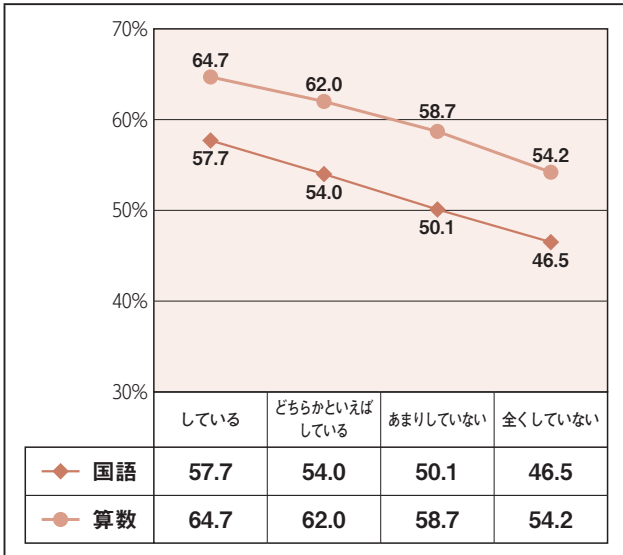
《授業の中で目標（めあて・ねらい・課題）が示されていたと思う》



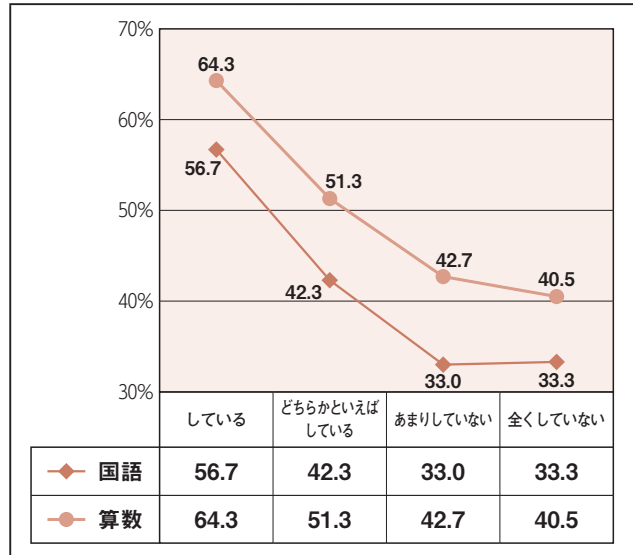
《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》



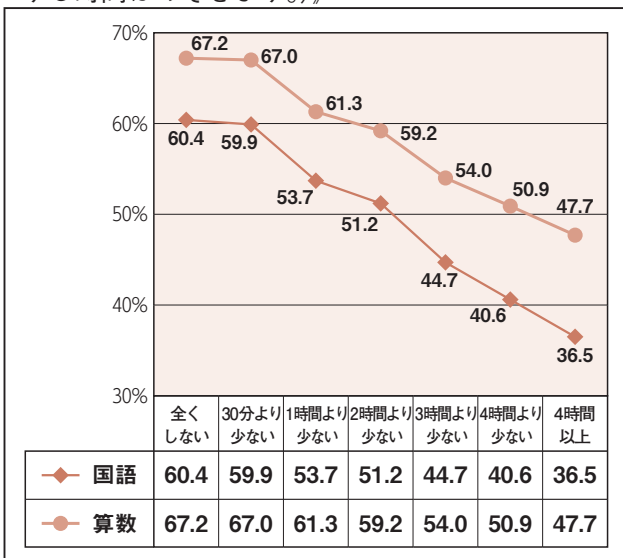
《自分で計画を立てて勉強をしている》



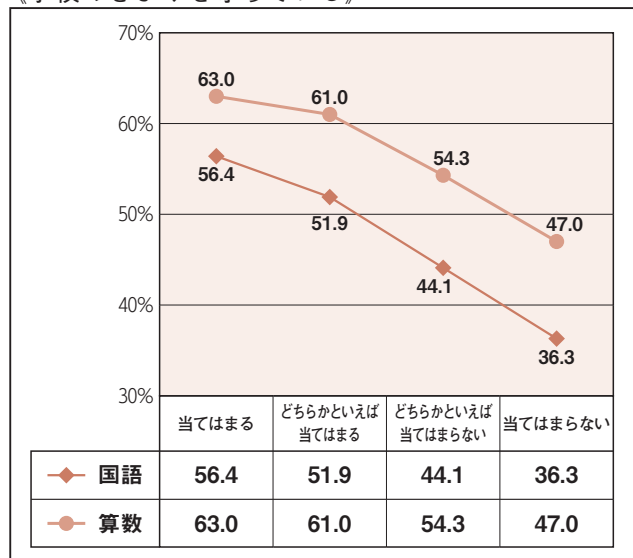
《学校の宿題をしている》



《あなたは、ふだん（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンなどを使ってゲームをする時間はのぞきます。）》



《学校のきまりを守っている》



3 教員の調査結果

令和7年度は全公立小・中学校（義務教育学校を含む）における教員を対象、令和5年度・6年度は抽出した小・中学校（義務教育学校を含む）における教員を対象とした。

「1 学力の重要な要素に関すること」について、肯定的な回答をした教員の割合は、それぞれ90%以上であり、学力の向上に向けた教員の意識は概ね良好である。

学びの12か条+ 1・2

- 「問題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力（思考力、判断力、表現力等）を育成する指導をしている」教員の割合は、小学校で94.9%、中学校で93.4%であり、これまでと同様に高い。
- 「児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている」教員の割合は、小学校で96.9%、中学校で95.2%であり、これまでと同様に高い。

学びの12か条+ 6・7

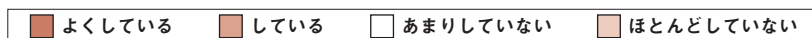
- 「児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている」教員の割合は、小学校で97.8%、中学校で97.0%であり、これまでと同様に高い。
- 「大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を使用した授業を行っている」教員の割合は、小学校で93.4%、中学校で90.7%であり、調査開始以来最も高い。

学びの12か条+ 10・11

- 「自校の学力向上に向けた計画（学力向上プランなど）に基づく指導をしている」教員の割合は、小学校で94.6%、中学校で90.3%であり、これまでと同様に高い。

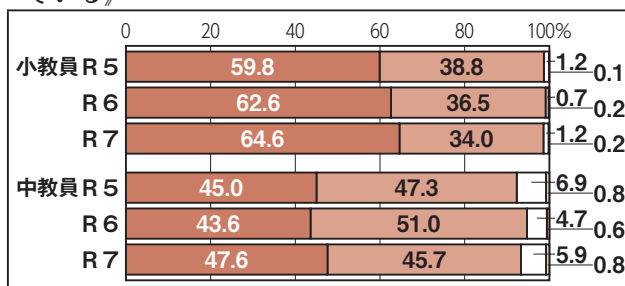
※「回答できない」及び無回答を除いた割合で示している。

次の指導等を、昨年度からどの程度行っていますか。

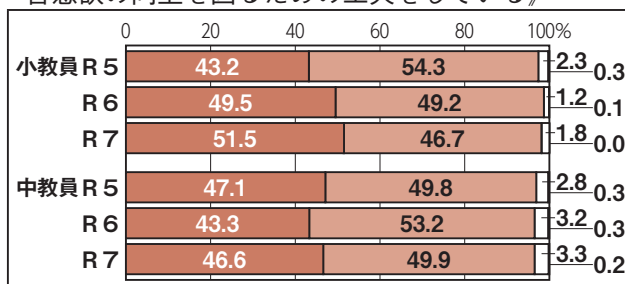


1 学力の重要な要素に関すること

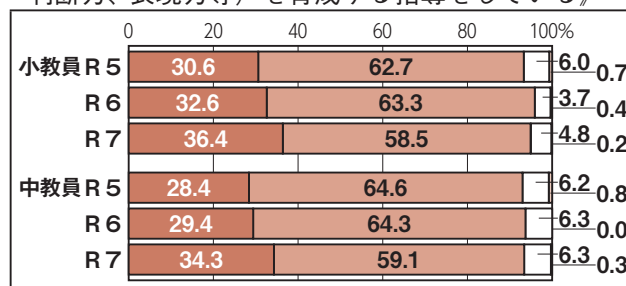
《繰り返し学習（音読、暗記・暗唱、反復学習など）を通して、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている》



《課題設定や授業展開、教材・教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている》



《問題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力（思考力、判断力、表現力等）を育成する指導をしている》

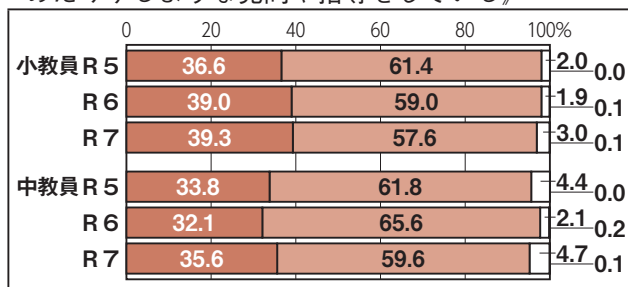


＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

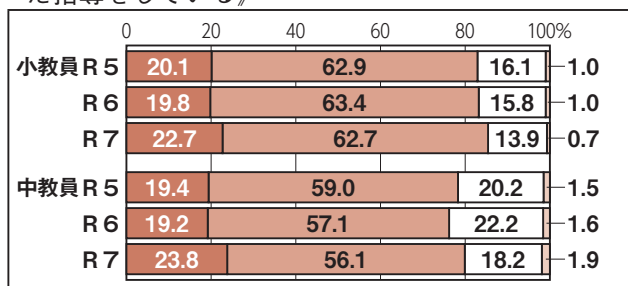
- ・《問題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力（思考力、判断力、表現力等）を育成する指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で94.9%、中学校で93.4%であり、これまでと同様に高い。
- ・《課題設定や授業展開、教材・教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で98.2%、中学校で96.5%であり、これまでと同様に高い。

2 教科等に関すること

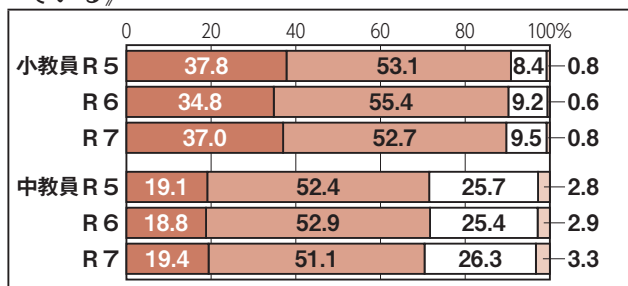
《児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている》



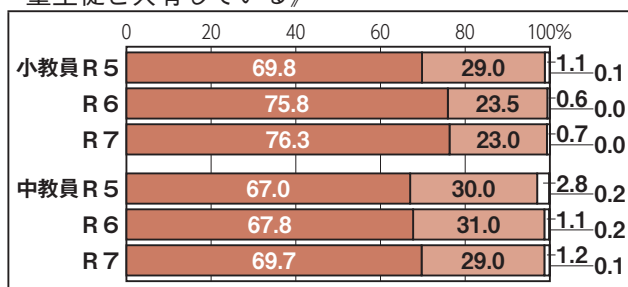
《記録、要約、説明、論述などの言語活動を重視した指導をしている》



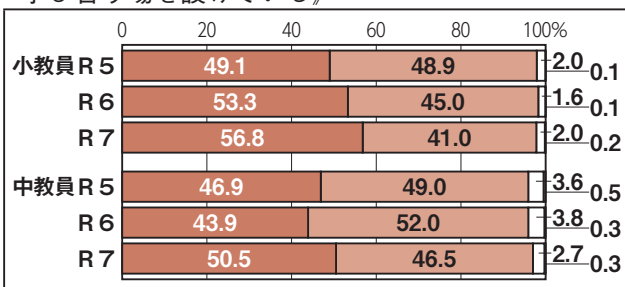
《ノート の書き方やまとめ方などの指導を通して、考え方を身に付けることができるような指導をしている》*4



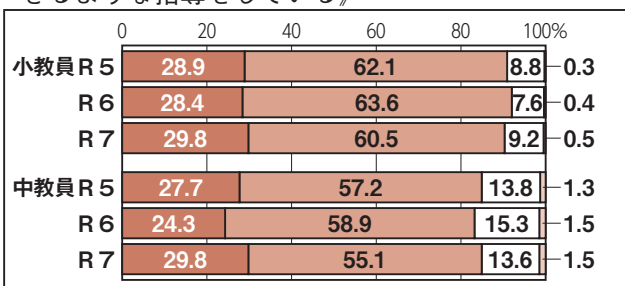
《授業の中で、目標（めあて・ねらい・課題）を児童生徒と共有している》



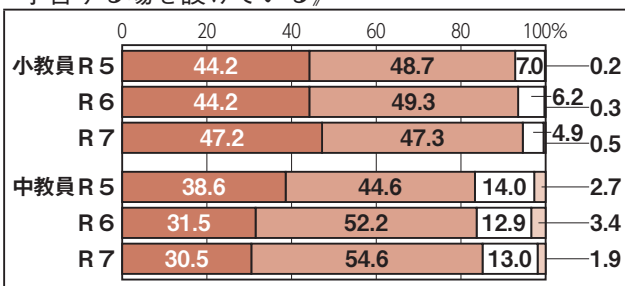
《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている》



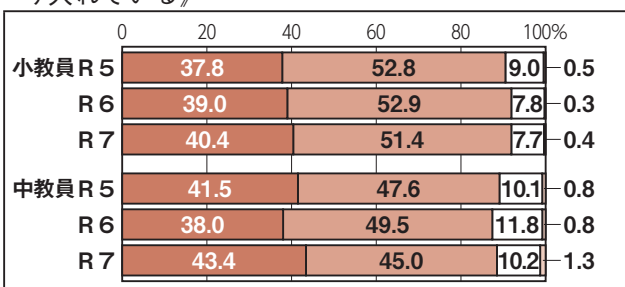
《考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるような指導をしている》*3



《児童生徒がテストの間違ったところを振り返って学習する場を設けている》



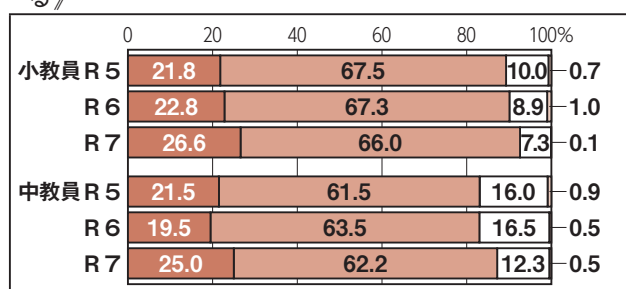
《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》



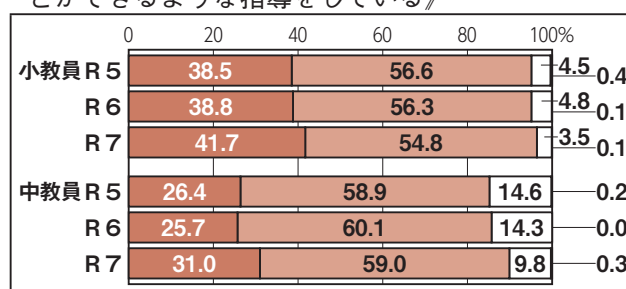
*3 R5年度は「考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるように指導をしている」

*4 R5年度は「ノート の書き方やまとめ方などの指導を通して、考え方を身に付けさせる指導をしている」

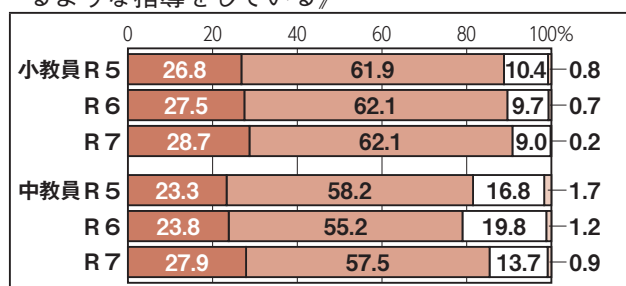
《授業において、明確な評価規準を基に児童生徒の定着状況を把握し、学習指導の改善に生かしている》



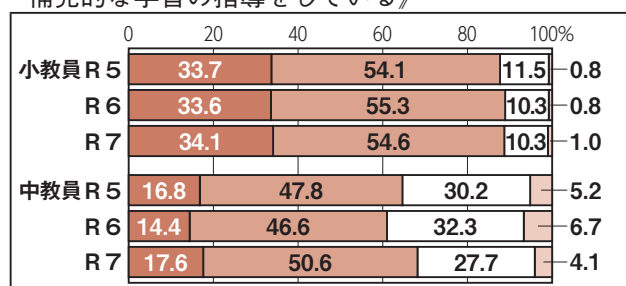
《授業において、児童生徒一人一人に自分の成長や変容を自覚できるようにするなど、自信をもつことができるような指導をしている》*5



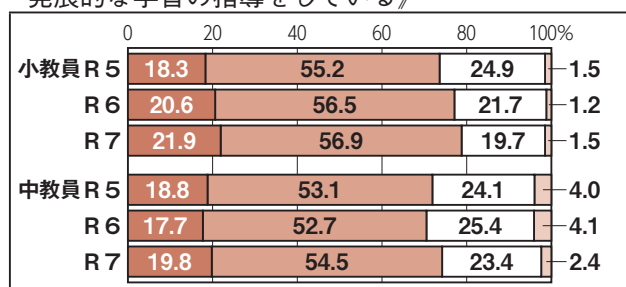
《授業で身に付けたことを課題の解決に活用したり、他教科や日常生活の様々な場面で生かしたりできるような指導をしている》*6



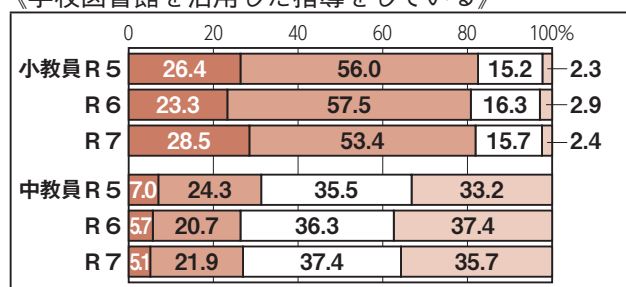
《個に応じた指導として、習熟の遅い児童生徒に、補的な学習の指導をしている》



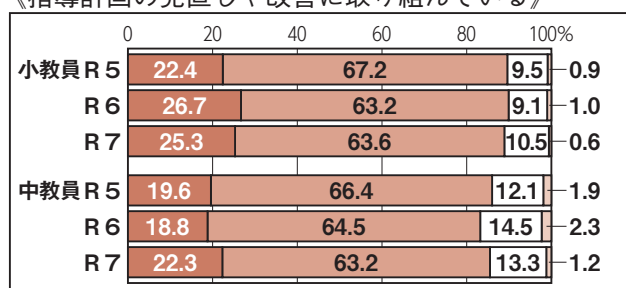
《個に応じた指導として、習熟の早い児童生徒に、発展的な学習の指導をしている》



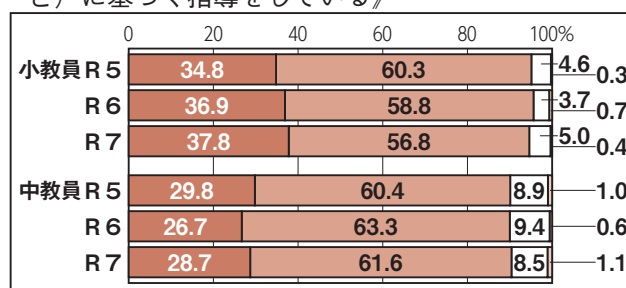
《学校図書館を活用した指導をしている》



《指導計画の見直しや改善に取り組んでいる》



《自校の学力向上に向けた計画（学力向上プランなど）に基づく指導をしている》*7



*5 R5年度は「授業において、児童生徒一人一人に自分の成長や変容を自覚させるなど、自信をもたせるような指導をしている」

*6 R5年度は「授業で身に付けたことを課題の解決に活用したり、他教科や日常生活の様々な場面で生かしたりできるように指導をしている」

*7 R6年度までは「自校の「学力向上プラン」に基づく指導をしている」

<肯定的な回答の割合が高い項目>

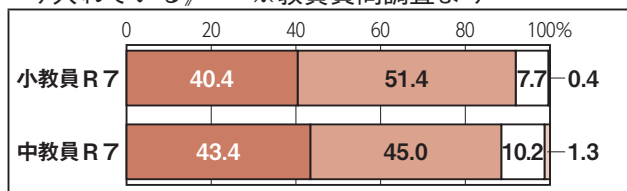
- ・《児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で96.9%、中学校で95.2%であり、これまでと同様に高い。
- ・《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で97.8%、中学校で97.0%であり、中学校では調査開始以来最も高い。
- ・《授業の中で、目標（めあて・ねらい・課題）を児童生徒と共有している》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で99.3%、中学校で98.7%であり、これまでと同様に高い。

<R 6年度と比べて上昇した項目>

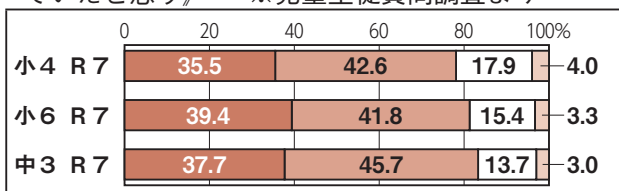
- ・《記録、要約、説明、論述などの言語活動を重視した指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で85.4%、中学校で79.9%であり、R 6年度より中学校で3.6ポイント増加している。
- ・《授業において、明確な評価規準を基に児童生徒の定着状況を把握し、学習指導の改善に生かしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で92.6%、中学校で87.2%であり、R 6年度より中学校で4.2ポイント増加している。
- ・《授業において、児童生徒一人一人に自分の成長や変容を自覚できるようにするなど、自信をもつことができるような指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校96.5%、中学校で90.0%と調査開始以来最も高く、R 6年度より中学校で4.2ポイント増加している。
- ・《授業で身に付けたことを課題の解決に活用したり、他教科や日常生活の様々な場面で生かしたりできるような指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で90.8%、中学校で85.4%と調査開始以来最も高く、R 6年度より中学校で6.4ポイント増加している。
- ・《個に応じた指導として、習熟の遅い児童生徒に、補充的な学習の指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で88.7%、中学校で68.2%であり、R 6年度より中学校で7.2ポイント増加している。
- ・《個に応じた指導として、習熟の早い児童生徒に、発展的な学習の指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で78.8%、中学校で74.3%と調査開始以来最も高く、R 6年度より中学校で3.9ポイント増加している。

<その他、留意する項目>

《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》 ※教員質問調査より



《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》 ※児童生徒質問調査より

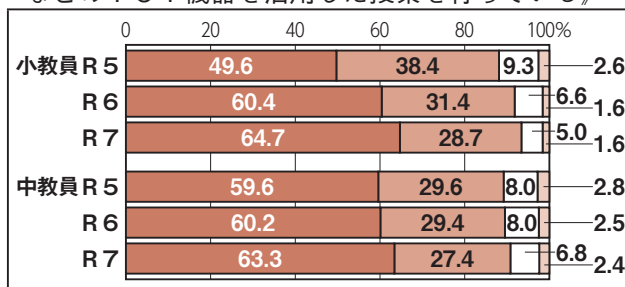


- ・《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で91.8%、中学校で88.4%である。また、児童生徒の調査結果では、《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小4で78.1%、小6で81.2%、中3で83.4%である。

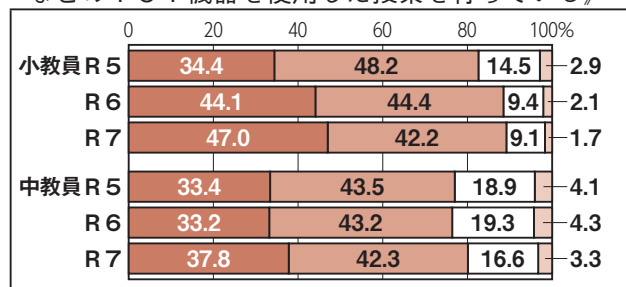
3

ICTの活用に関すること

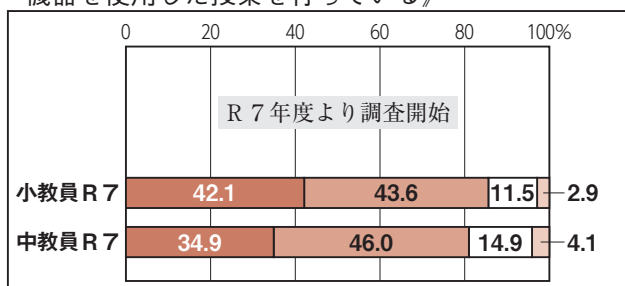
《大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を行っている》



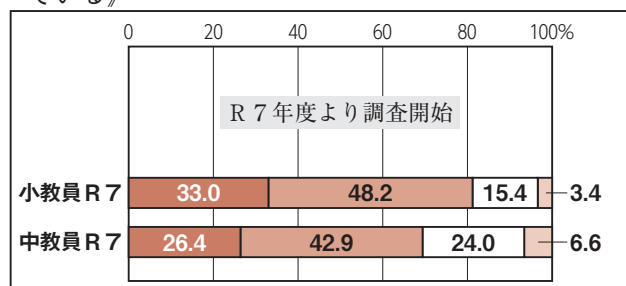
《児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した授業を行っている》



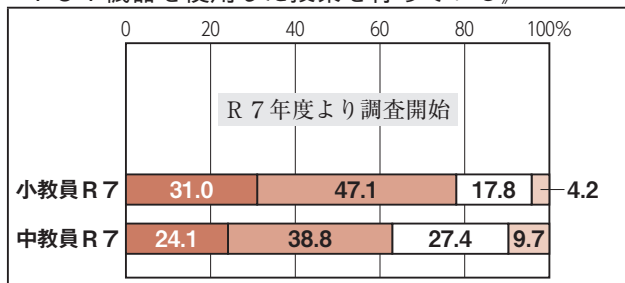
《児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索など）で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した授業を行っている》



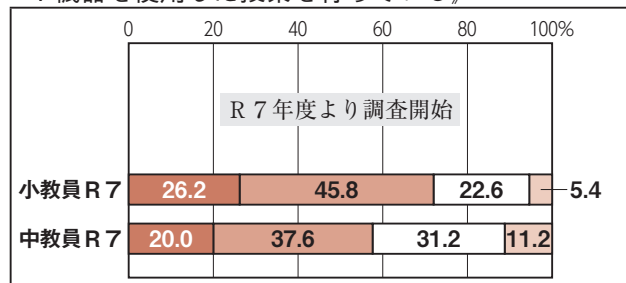
《児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した授業を行っている》



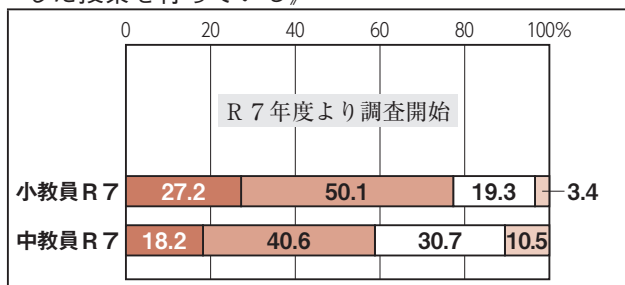
《教職員と児童生徒がやり取りする場面で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した授業を行っている》



《児童生徒同士がやり取りする場面で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した授業を行っている》



《児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した授業を行っている》



＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

- ・《大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を行っている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で93.4%、中学校で90.7%と調査開始以来最も高い。
- ・《児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索など）で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した授業を行っている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で85.7%、中学校で80.9%と高い。

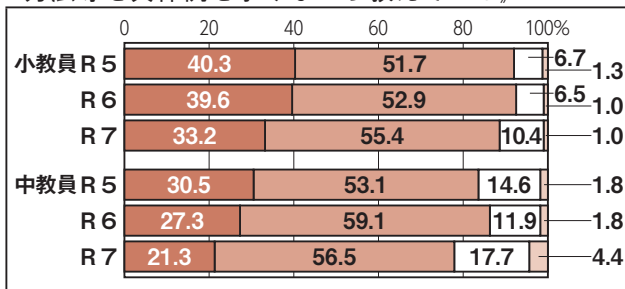
＜R6年度と比べて上昇した項目＞

- ・《児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した授業を行っている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で89.2%、中学校で80.1%と調査開始以来最も高く、R6年度より中学校で3.7ポイント増加している。

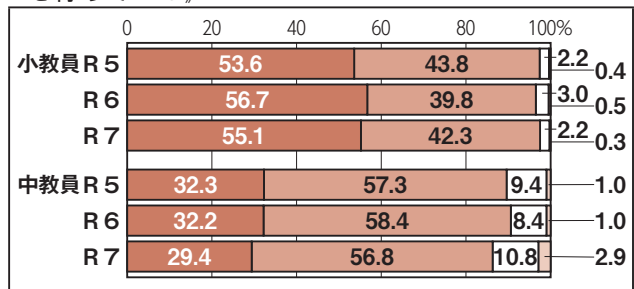
4

家庭学習に関すること

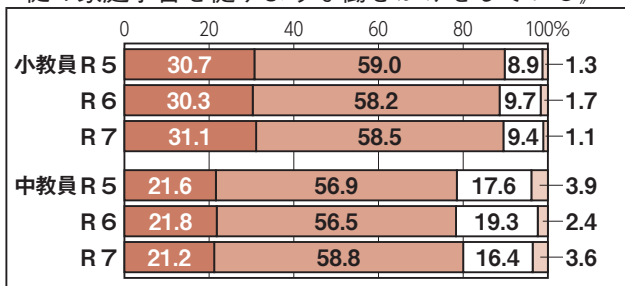
《家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている》



《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》

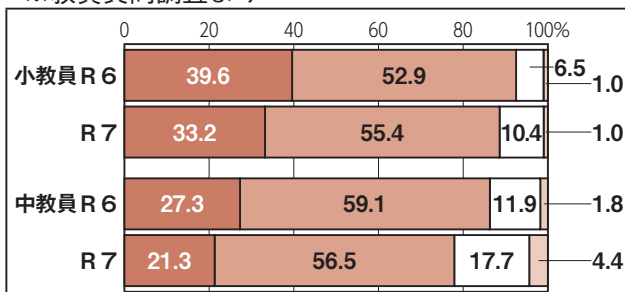


《学校・学年・学級単位で、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをしている》

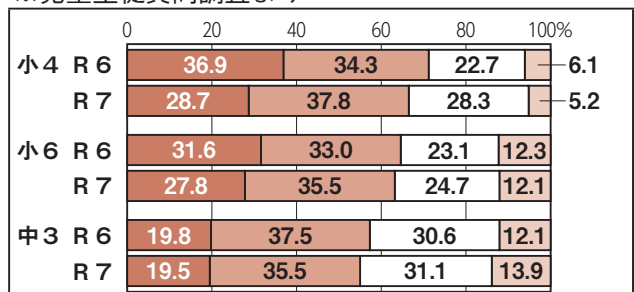


<その他、留意する項目>

《家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている》
※教員質問調査より



《自分で計画を立てて勉強している》小4
《家で自分で計画を立てて勉強している（学校の授業の予習や復習を含みます）》小6・中3
※児童生徒質問調査より

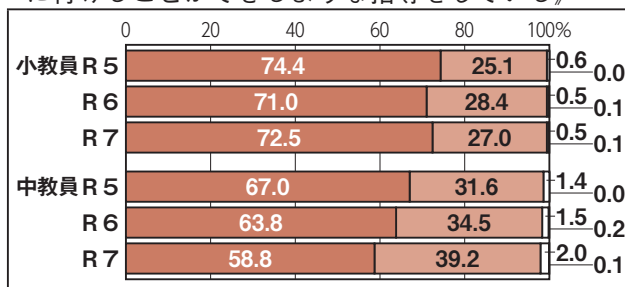


・《家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で88.6%、中学校で77.8%であり、R6年度より小学校で3.9ポイント、中学校で8.6ポイント減少している。また、児童生徒の調査結果では、小4《自分で計画を立てて勉強している》について、肯定的な回答をした児童の割合は66.5%、小6・中3《家で自分で計画を立てて勉強している（学校の授業の予習や復習を含みます）》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小6で63.3%、中3で55.0%である。R6年度より小4で4.7ポイント減少している。

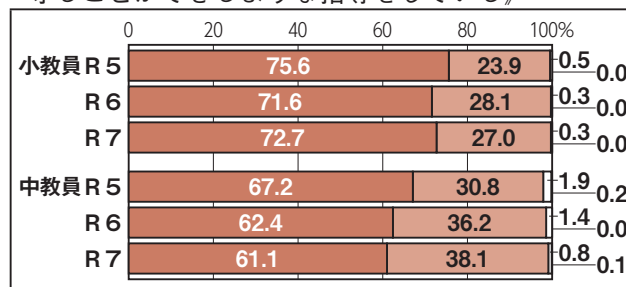
5

学習規律等に関すること

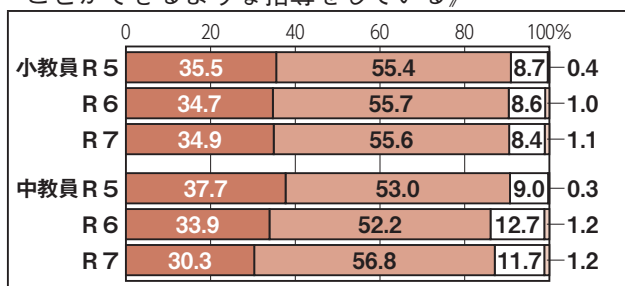
《児童生徒が、学習規律（私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど）を身に付けることができるような指導をしている》*8



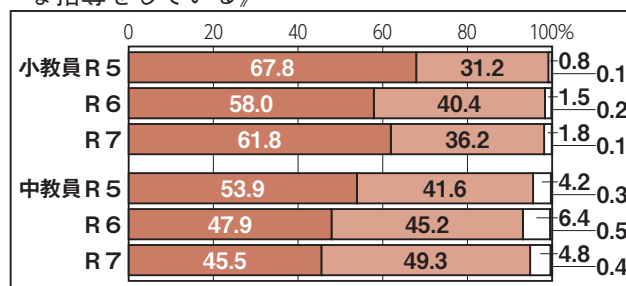
《児童生徒が、校則や集団生活のルール・マナーを守ることができるような指導をしている》*9



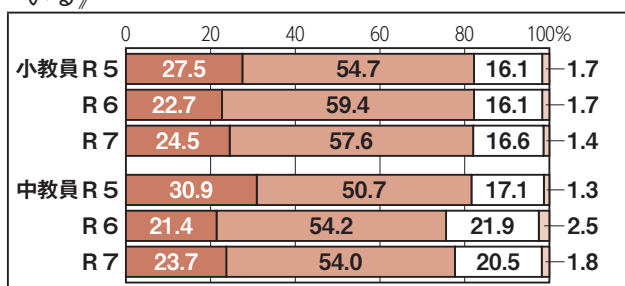
《児童生徒が、基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯、テレビ等の視聴時間など）を身に付けることができるような指導をしている》*10



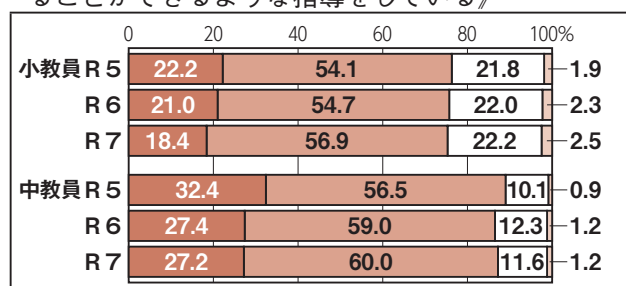
《児童生徒が、進んで挨拶をすることができるような指導をしている》*11



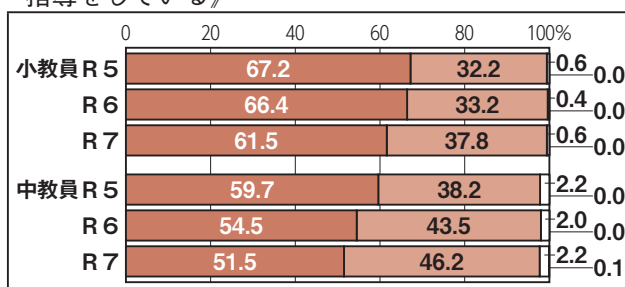
《児童生徒が、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心をもつことができるような指導をしている》*12



《児童生徒が、将来就きたい仕事や夢について考えることができるような指導をしている》*13



《児童生徒を認めたり、励ましたりしながら、児童生徒が、自分のよさを伸ばすことができるような指導をしている》*14



＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

・《児童生徒が、学習規律（私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど）を身に付けることができるような指導をしている》《児童生徒が、校則や集団生活のルール・マナーを守ることができるような指導をしている》《児童生徒を認めたり、励ましたりしながら、児童生徒が、自分のよさを伸ばすことができるような指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で 99.3%～99.7%、中学校で 97.7%～99.2%であり、これまでと同様に高い。

- *8 R5年度は「児童生徒に、学習規律（私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど）を身に付けさせる指導をしている」
 *9 R5年度は「児童生徒に、校則や集団生活のルール・マナーを守るよう指導をしている」
 *10 R5年度は「児童生徒に、基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯、テレビの視聴時間など）を身に付けさせる指導をしている」、R6年度は「児童生徒が、基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯、テレビの視聴時間など）を身に付けることができるような指導をしている」
 *11 R5年度は「児童生徒に、進んで挨拶をするよう指導をしている」
 *12 R5年度は「児童生徒に、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心をもたせる指導をしている」
 *13 R5年度は「児童生徒に、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている」
 *14 R5年度は「児童生徒を認めたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている」、R6年度は「児童生徒を認めたり、励ましたりしながら、児童生徒が、長所を伸ばすことができるような指導をしている」

改訂 いしかわ学びの指針12か条【^{プラス}学びの12か条＋】

活用力を高める授業づくり

1 物事を多様な観点から考察する力の育成

- ・得た情報を表面的に捉えずに多面的・多角的に検討させ、思考・判断できるようにする
- ・他者と話し合い、問題解決を進めるための情報の送り方、受け取り方が身に付くようにする

2 自ら課題を発見し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成

- ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める
- ・各教科等の文脈の中で身に付ける力と、教科横断的に身に付ける力とを相互に関連付けながら育成する

3 根拠や筋道を明確に表現する力の育成

- ・考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるようにする
- ・思考の過程がわかる書き方や書く内容を明確に示すなど、ノート指導を充実する

学力・学習を支える基盤づくり

4 目的や状況・相手に応じて「聞く」「話す」態度・姿勢の醸成

- ・目的や状況・相手に応じて適切に「聞く」「話す」ことを、低学年から意図的・計画的に指導する
- ・相手や内容に関心を持ち、安心して最後まで聞き合い、話し合う姿勢や態度が身に付くようにする

5 目的や条件に応じて「書く」、必要な情報を「読む」態度・姿勢の醸成

- ・目的や条件に応じ、質や量を考えて書くことができるようにする
- ・文章や表・グラフなどから、必要な情報や価値のある情報を読み取ることができるようにする

6 よりよい解決に向かうための質の高い学び合いのプロセスの重視

- ・多様性を尊重する態度と、互いのよさを生かして協働する力が身に付くようにする
- ・目的やねらいに向け、相互の考えを整理したりまとめ上げたりする技能が身に付くようにする

7 主体的な問題解決のための効果的なICT活用の促進

- ・ICTを効果的に活用した分かりやすく深まる授業づくりを進める
- ・学校・地域にあるリソースを生かし、ICTの活用スキルの確実な定着を進める

8 よりよい学習習慣・生活習慣の定着

- ・家庭学習の充実に向け家庭や地域と連携し、よりよい習慣づくりを推進する
- ・豊かな思考・判断の基盤となる子どもの語彙力や読解力を高めるため、読書活動を活性化する

9 家族や地域の人々とのコミュニケーションを促進し、家庭・地域・社会と結び付いた学びの推進

- ・家庭や地域での大人と子どもの共通の体験や学習、対話を促進する
- ・社会の出来事に関心を持たせ、子どもの視野を広げるとともに、将来への目的意識を持つことができるようにする

指導改善を進める体制づくり

10 学力と指導力を持続的・継続的に高める組織づくりの推進

- ・学校全体で目標を共有し、一人一人の役割を明確にして持続的・継続的に課題解決に取り組む
- ・小中連携を推進し、指導の連続性を図る

11 現状把握に基づき、取組の実施・評価・改善を図る指導体制の確立

- ・児童生徒の現状把握からその原因を究明し、目標に照らした課題と、その改善に向けた具体策を設定する
- ・中長期的な目標を設定し実践するとともに、短期的な目標達成に向け、スモールステップで共通実践を行い、検証・評価・改善を積み上げる【学力向上ロードマップ】

12 保護者・地域との積極的な情報共有・連携の推進

- ・学校として保護者や地域に、情報や提案を積極的に発信し情報公開に努め、目標や課題を共有する
- ・地域の諸機関、人材との連携協力を進め、地域の子どもの育てる環境づくりを進める

令和7年度
「基礎学力調査」一分析・考察と指導事例一

令和7年10月発行

石川県教育委員会事務局学校指導課
〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
TEL.076-225-1827
e-mail : gakusi@pref.ishikawa.lg.jp